

ニ徳アル具似ヲナシテ詐ハル性用不應爲ノ生活ヲナス業用アル心所ナリ是レ亦  
 貪ノ一分ナリ、  
 諂トハ爲網他故矯設異儀險曲爲性能障不諂教誨爲業ト釋シテ己ヲ善キモノト思  
 ハシメンカ爲ニ種々ノ方便ヲシテ他ノ氣ヲトル性用人ノ正シキ教ヲ障ヘル業用  
 アル心所ナリ、コレ貪ト痴トノ一分ナリ、  
 害トハ於諸有情心無悲愍損惱爲性能障不害逼惱爲業ト釋シテ兎角人ヲ傷メタキ  
 情ナキ性用人ヲ逼メナヤマス業用アル心所ナリ、是レ瞋ノ一分ナリ  
 憍トハ於自盛事深生深著醉傲爲性能障不憍染依爲業ト釋シテ己レノ學徳若クハ  
 財産等ニウスポレテオゴリ高アル性用進取ノ心ヲ起サズ染汚法ヲ生ズルニ至ル  
 業用アル心所ナリ、是レ貪ノ一分ナリ、  
 已上ノ十種ハ是レ小隨惑ナリ、小隨惑ノ義前ニ示シ、カ如シ、而シテ此十ハ唯第六  
 意識ト相應スルノミニシテ前五識相應ニアラズ、是レ注意スヘキ要點ナリ、  
 無慚及無愧トハ是中隨惑ナリ、コノ二ハ是レ過惡ヲ耻チザルノ心ナリ、善心ノ慚愧  
 ナ説クルニ反シテ知ルヘシ無慚トハ不顧自法輕拒賢善爲性能障礙慚生長惡行爲  
 業ト釋シテ身分ニモ教法ニモ耻ヂズシテ賢者善事ヲ輕ンズル性用諸ノ惡事ヲナ  
 ス業用アル心所ナリ、無愧トハ不顧世間崇重暴惡爲性能障礙愧生長惡行爲業ト釋  
 シテ世間ノ見聞ヲモ顧ミス暴惡ヲ崇ノ親ムノ性用惡行ヲ生長スル業用アル心所  
 ナリ、  
 掉舉婚沈不信懈怠放逸失念散亂不正知トハ是大隨惑ノ入種ナリ、コレカ一々ノ略  
 解ハ第二能變ノ下(一四五頁)ニ示スカ如シ、  
 不定謂悔眠尋伺二各二トハ是レ第六ニ不定ノ四種ヲ示ス、  
 悔トハ又惡作ト名ク惡所作業追悔爲性障止爲業ト釋シテ先時ヲ追思シテ其作レ  
 、コトヲ後悔シ、又ハ作サマリシコトヲモ後ニ惡ム性用アリ、コレニヨリテ心一定  
 セズ定ヲ障ニル業用アル心所ナリ、  
 眠トハ具ニハ睡眠ト云フ、令不自在味畧爲性障觀爲業ト釋シテ身体ヲ自在ナラザ  
 ラシメ心用ヲ味ク狭クナラシムルシカトセメ性用アリ、コレニヨリテ慧ヲ障フル  
 業用アリ、コレ熟睡ノ心ナル位ヲ云フニハアラズ、第六ノ起ラザルニ至ルマテ第六  
 ト相應スル心所ナリ、

ニ徳アル具似ヲナシテ詐ハル性用不應爲ノ生活ヲナス業用アル心所ナリ是レ亦  
 貪ノ一分ナリ、  
 諂トハ爲網他故矯設異儀險曲爲性能障不諂教誨爲業ト釋シテ己ヲ善キモノト思  
 ハシメンカ爲ニ種々ノ方便ヲシテ他ノ氣ヲトル性用人ノ正シキ教ヲ障ヘル業用  
 アル心所ナリ、コレ貪ト痴トノ一分ナリ、  
 害トハ於諸有情心無悲愍損惱爲性能障不害逼惱爲業ト釋シテ兎角人ヲ傷メタキ  
 情ナキ性用、人ヲ逼メナヤマス業用アル心所ナリ、是レ瞋ノ一分ナリ  
 憍トハ於自盛事深生深著醉傲爲性能障不憍染依爲業ト釋シテ己レノ學徳若クハ  
 財産等ニウスポレテオゴリ高アル性用進取ノ心ヲ起サズ染汚法ヲ生ズルニ至ル  
 業用アル心所ナリ、是レ貪ノ一分ナリ、  
 已上ノ十種ハ是レ小隨惑ナリ、小隨惑ノ義前ニ示シ、カ如シ、而シテ此十ハ唯第六  
 意識ト相應スルノミニシテ前五識相應ニアラズ、是レ注意スヘキ要點ナリ、  
 無慚及無愧トハ是中隨惑ナリ、コノ二ハ是レ過惡ヲ耻チザルノ心ナリ、善心ノ慚愧  
 ナ説クルニ反シテ知ルヘシ無慚トハ不顧自法輕拒賢善爲性能障礙慚生長惡行爲  
 業ト釋シテ身分ニモ教法ニモ耻ヂズシテ賢者善事ヲ輕ンズル性用諸ノ惡事ヲナ  
 ス業用アル心所ナリ、無愧トハ不顧世間崇重暴惡爲性能障礙愧生長惡行爲業ト釋  
 シテ世間ノ見聞ヲモ顧ミス暴惡ヲ崇ノ親ムノ性用惡行ヲ生長スル業用アル心所  
 ナリ、  
 掉舉婚沈不信懈怠放逸失念散亂不正知トハ是大隨惑ノ入種ナリ、コレカ一々ノ略  
 解ハ第二能變ノ下(一四五頁)ニ示スカ如シ、  
 不定謂悔眠尋伺二各二トハ是レ第六ニ不定ノ四種ヲ示ス、  
 悔トハ又惡作ト名ク惡所作業追悔爲性障止爲業ト釋シテ先時ヲ追思シテ其作レ  
 、コトヲ後悔シ、又ハ作サマリシコトヲモ後ニ惡ム性用アリ、コレニヨリテ心一定  
 セズ定ヲ障ニル業用アル心所ナリ、  
 眠トハ具ニハ睡眠ト云フ、令不自在味畧爲性障觀爲業ト釋シテ身体ヲ自在ナラザ  
 ラシメ心用ヲ味ク狭クナラシムルシカトセメ性用アリ、コレニヨリテ慧ヲ障フル  
 業用アリ、コレ熟睡ノ心ナル位ヲ云フニハアラズ、第六ノ起ラザルニ至ルマテ第六  
 ト相應スル心所ナリ、

尋伺トハ思ト慧トノ分位ニ假立スル心所ニシテ別體アルニアラズ、尋、伺、尋求令心、  
忽遽於意言境、應轉爲性、伺、謂、伺察令心、忽遽於意言境、細轉爲性、此二俱以安不安住身、  
心、分位所依爲業ト釋シテ、一切ノ境ニ對シテ心用ヲアハテシムル作用ナリ、ソノ應  
ナルヲ尋ト云ヒ細ナルヲ伺ト云フ、コレ物ヲ言ハントテ諸種ノコトヲ推シ量ル心  
所ナリ、

唯 識 論 講 義

二各二トハ是レコノ四種ノ不定ナル義ヲ説ク、上ノ二ノ字ハ二種ノ二ヲ顯ス、即チ  
悔ト眠トノ二ト、尋ト伺トノ二トノ二ノ二種ナリト顯ハシテ、コノ二種ノ種類各別  
ナルコトヲ示ス、(疏七本丁十三右十義ノ類別ヲ示ス)下ノ二ノ字ハ染ト淨トノ二ナリ、  
即チコノ二ナル悔眠ト尋伺トノ二種ハ染淨ニ通シテ、煩惱ノ如ク唯染トモ一定セ  
ズ、信等ノ如ク唯淨ニモ一定セズ、故ニ此四種ヲ不定ノ心所トス、  
上來了境能變ノ相應スル六位ノ心所ヲ略解シ了ル、

(五) 所依門

心々所ノ生起スルニハ必ス因緣依、増上緣依等無間緣ノ三種ノ所依アルコト廣ク  
第二能變所依門ノ下(一二六頁以下)ニ解説スルカ如シ、今第三能變ニツキテ其所依

ヲ明ス

唯 識 論 講 義

依止根本識トハ前六識皆根本ナル阿陀那識即第八識ヲ所依止トシテ生起スルコ  
トヲ明ス、コレ三依ノ中因緣依及ヒ増上緣依中ノ共依ヲ説クルナリ、即チ種子ノ願  
耶ヲ親因緣トシテ前六識ノ現行アルヲ得、言ヒ換フレバ第八識中ノ生果ノ功能  
即チ各自ノ種子ヨリ前六識生起スルナリ、故ニ根本識ハ是レ六識ノ因緣依ナリ、而  
シテ前五識ハ五根ヲ不共依トナス、ソノ五根ハ現行ノ第八ガ執受スルニヨリテア  
ルヲ得レバ、前五識ハ現行ノ第八ヲ以テ所依トナスト云フコトヲ得、是レ根本依  
ノ義即チ共依ナリ、又第六識モ第七識ヲ以テ所依トナス、ソノ第七識ハ現行ノ第八  
識ヲ以テ不共依トスレハ第六識ハ第八識ヲ以テ根本共依トナスト云フコトヲ得、  
コレ増上緣依即チ俱有依ノ義ナリ、此義ヲ物説シテ依止根本識ト云フ、要スルニ前  
六識ハ現行ノ願耶ヲ以テ共依ナル増上緣依トシ、種子ノ願耶ヲ以テ親依ナル因緣  
トナスト云フニアリ、此餘ノ不共ナル増上緣依及ヒ等無間緣依ノコトハ前ニ指セ  
ル第二能變ノ下ニツキテソノ義ヲ知ルベシ、

(六) 俱不俱轉門

俱不俱轉トハ俱時轉ト不俱時轉トヲ云フ、即チ第三能變ノ六識ノ現行スルトキ、コ  
 ノ六識互相同時ニ並起シ若クハ並起セザル場合ヲ論スル義門ナリ、疏(七本六丁)ニ  
 六識俱轉門ト云ヘルコトナリ、六識ト云フト雖モコノ一門ハ前五識ノミニツキテ  
 說ケリ蓋シ第六識ハ前五識ノ多若クハ一ニテモ起リタル場合ニハ必ス俱轉スル  
 モノナレバ特ニ論ズルノ要ナクレバナルベシ、而モ第七段ニ至リテハ唯第六識ニ  
 ツキテ起滅ヲ明シテ前五識ノ起滅ヲ說カズ、是レ前五識ハ俱不俱轉ヲ論スレバ起  
 滅自ラ明カナレバナリ、故ニ第六第七ノ兩段ハ通シテ六識ノ俱轉不俱轉ヲ說クト  
 共ニ六識ノ起滅ヲ明スモノト云フベシ

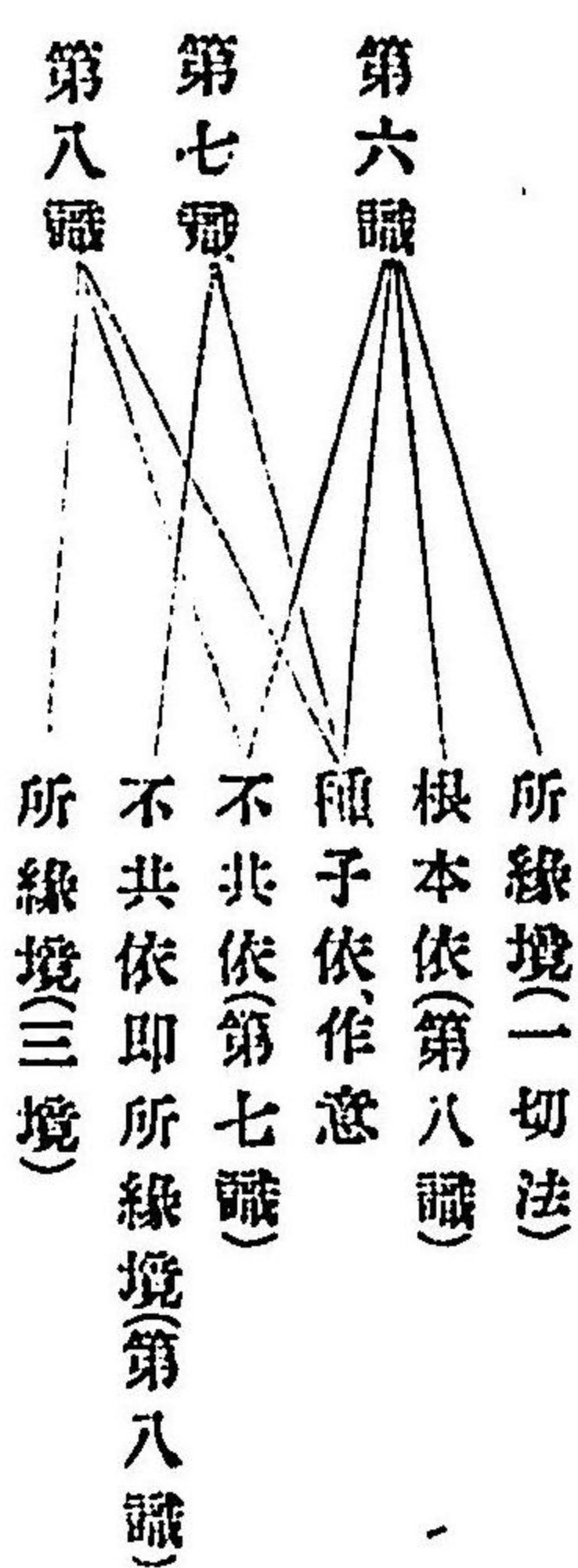
五識隨緣現成俱或不俱如海波浪依水トハ五識ノ俱轉不俱轉ヲ說ク第八ノ義門ナリ  
 五識隨緣現トハ五識トハ眼乃至身ノ五根ニ生セラル、前五識ナリ、コノ五種ハ五  
 義(一、俱ニ色根ニ依ル、二、同ク色境ヲ緣ス、三、俱ニ但現在ヲ緣ス、四、俱ニ現量ナリ、五、俱  
 ニ間斷アル法ナリ)相似スル義アルカ故ニ合シテ、五識ト說ク、隨緣現トハコノ五識  
 ハ緣ニ隨ヒテ現起ス、其緣多種ニシテ恒時ニアルニアラザレハ五識ハ始終間斷ナ  
 ク生起シオアルモノニアラズ、其緣ヲ云ハ、眼識ハ九緣、耳識ハ八緣、鼻舌身ノ三識ハ

七緣ヲ要ス、左表ノ如シ



所緣境作意四種俱有依種子

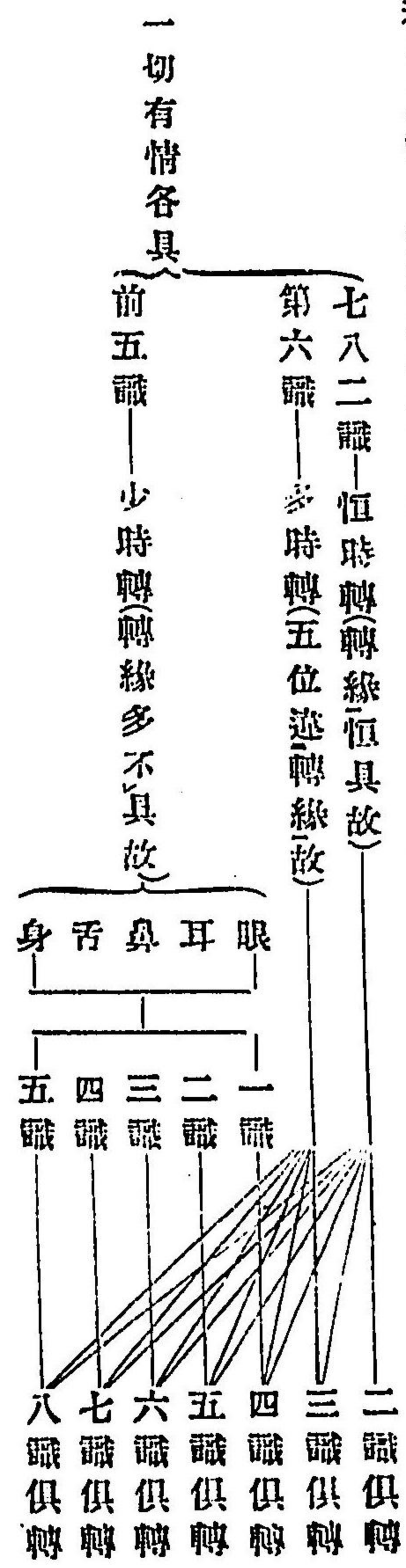
若シ後三識ノ緣ヲ云ハ、第六識ハ五緣、第七識ハ三緣(是所依ノ根ト所緣ノ境トハ  
 ソノ法一ナレバ合シテ三緣ト云フ、義ニ約セバ四緣ト云フベシ)第八識ハ四緣ナリ、  
 左表ノ如シ



所緣境(一切法)  
 根本依(第八識)  
 種子依(作意)  
 不共依(第七識)  
 不共依即所緣境(第八識)  
 所緣境(三境)

故ニ前五識ハ九緣若クハ八緣七緣ヲ具スルニ隨ヒテ現起スルナリ、或俱或不俱ト  
 ハコノ五識ハ衆緣和合シテ方メテ生スルコトヲ得、ソノ緣多種ナルカ故ニ緣ノ具  
 スルニ漸順アリ、順ニ諸識ノ緣具スレバ諸識俱轉シ、若シ爾ラザル場合ニハ俱轉セ

ス、又漸次ニ縁ノ具スルニ隨ヒテ起ル一二三四五ノ識ノ俱轉不俱轉アリ、譬ヘハ一  
種ノ風縁アレバ一波生シ、或ハ多種ノ縁アレハ千万波ヲ海中ニ現スル多少アルカ  
如シ、故ニ如潑波依水ト云フ、滅識ヲ海水ニ喩ヘ、五識ヲ潑波ニ喩ヘ、其縁ヲ風ニ喩フ  
若シ八識ノ俱轉不俱轉ヲ云ハ、左圖ノ如シ(論七十六)



(七) 起滅分位門

起滅分位トハ轉起ノ分位ト滅即不起ノ分位トヲ明ス、コレ第三能變ノ起滅門ナレ  
トモク、第六意識ノ起滅ノミヲ既ケリ、コレ前ニ云ヘルカ如ク前五識ノ俱不俱轉  
即チ起滅ノ分位ナレバ今タ、意識ノミヲ明ス、  
意識常現起除生無想天及無心二定睡眠與悶絕トハ是第六意識ノ起滅ノ分位ヲ明

ス第九ノ義門ナリ

意識常現起トハ意識トハ第六識ナリ、即チ前段ニ示セル五識隨縁現ニ對シテ既ケ  
ルナリ、コレ前五識ハ(一)尋伺ト相應セザルガ故ニ思慮スルコト能ハズ、(二)他ニ引レ  
テ生スル識ナルニ由リテ自ラ起ルコト能ハズ、(三)唯外門ニ轉ズ即外界ニ對シテノ  
ミ起ルカ故ニ起ルトキハ必ス多縁ヲ藉ル、多縁ノ故ニ縁具シ難シ、故ニ現行スルト  
キ少クシテ起ラサルトキ多シ、然ルニ第六意識ハ之ニ反シテ(一)尋伺ト相應スルカ  
故ニ自ラ能ク思慮スルコトヲ得、(二)他引ニ由ラスノ自ラ生シ、(三)内外門ニ轉ス、即チ  
外界ノ五境ノ事ヲモ縁シ、内界ノ心法理性等ヲモ縁スルカ故ニ、縁ヲ藉ルコト少シ  
縁少キカ故ニ縁ヲ具シ易シ、故ニ恒時ニ現行セリ、故ニ前五識ニ對シテ常現起ト云  
フ、常現起ト云フト雖モ然レモ遠縁ニ遇フカ故ニ間斷ノ時アリ、即チ无心ノ五位是  
ナリ、後ニ説ク所ノ如シ、間斷ノ時アルカ故ニ七八二識ノ恒時轉ノ識トハ同シカラ  
ズ  
除生無想天及無心二定睡眠與悶絕トハ意識ノ起ルコトヲ得ザル遠縁即チ無心ノ  
五位ナリ、コレハ意識ナクシテ、除ト云フ、五位ノ略解左ノ如シ

唯 識 論 講 義

生、无、想、天、コ、レ、ハ、色、界、第、四、禪、ノ、第、三、廣、果、天、ノ、中、ニ、高、勝、ノ、依、處、ア、リ、コ、ニ、生、シ、タ、ル、  
 有、情、ハ、五、百、大、劫、ノ、間、行、住、坐、臥、心、法、生、起、セ、ズ、ト、云、フ、外、道、計、シ、テ、眞、ノ、涅、槃、ト、謂、ヘ、リ、  
 (是、レ、處、外、道、ハ、想、ノ、心、所、ヲ、以、テ、生、死、ノ、因、ト、計、シ、偏、ニ、之、ヲ、厭、ヒ、出、離、想、ノ、作、意、ヲ、以、テ、  
 无、想、定、ヲ、修、シ、テ、生、ス、ル、所、ヲ、レ、バ、實、ハ、不、恒、行、心、即、チ、前、六、識、ノ、心、々、所、皆、滅、ス、レ、ト、モ、  
 加、行、位、中、偏、ニ、想、ヲ、厭、フ、故、ニ、无、想、天、ト、云、ヒ、又、ハ、无、想、事、无、想、果、ト、云、フ、(是、レ、名、)コ、ノ、天、  
 ニ、ハ、第、八、識、及、染、汚、ノ、第、七、識、ハ、相、續、シ、テ、生、ス、レ、モ、第、六、意、識、ハ、初、生、及、ヒ、退、沒、ノ、兩、時、  
 ニ、ノ、ミ、ア、リ、テ、中、間、五、百、大、劫、ニ、ハ、前、六、識、ヲ、起、サ、マ、ル、ナ、リ、(是、レ、心、ノ、有、無、)此、報、ヲ、感、ス、  
 ル、ハ、无、想、定、ニ、シ、テ、コ、ノ、定、ヲ、修、ス、ル、時、ノ、微、々、心、所、熏、即、チ、厭、心、ト、俱、行、ス、ル、思、ノ、心、所、  
 ノ、種、子、ノ、不、動、業、ナ、ル、モ、ノ、先、ツ、廣、果、天、物、報、ノ、第、八、識、ヲ、感、ス、初、生、ノ、作、意、ク、彼、ノ、處、ノ、  
 異、熟、無、記、ノ、第、六、識、生、起、ス、レ、ト、モ、無、心、ノ、无、想、定、力、ニ、依、リ、テ、彼、ノ、異、熟、ノ、第、六、識、遂、ニ、  
 滅、シ、テ、五、百、大、劫、ノ、間、無、心、ナ、リ、コ、ノ、無、心、ノ、間、ヲ、无、想、天、ノ、別、報、ト、云、フ、是、レ、六、識、都、無、  
 ノ、分、位、ナ、リ、故、ニ、之、ヲ、假、立、ト、シ、テ、不、相、應、法、中、ノ、一、種、ト、ナ、セ、リ、  
 及、无、心、二、定、ト、ハ、是、无、想、定、ト、滅、盡、定、ト、ナ、リ、共、ニ、前、六、識、ヲ、滅、ス、ル、定、ナ、リ、无、心、ノ、二、字、  
 ハ、下、ノ、睡、眠、ト、悶、絶、ト、ノ、二、種、ニ、通、ズ、亦、六、識、都、無、ノ、位、ナ、ル、カ、故、ナ、リ、无、想、定、ト、ハ、有、ル、

唯 識 論 講 義

凡、夫、ノ、第、四、禪、第、三、遍、淨、天、マ、デ、ノ、貪、煩、惱、ヲ、伏、滅、シ、出、離、想、ノ、作、意、ヲ、行、相、ト、シ、テ、前、六、  
 ノ、心、々、所、ヲ、滅、ス、ル、有、漏、定、ナ、リ、是、レ、想、ノ、心、所、ヲ、首、ト、シ、テ、滅、ス、レ、バ、无、想、ト、名、ク、身、ヲ、  
 安、和、ナ、ラ、シ、ム、レ、ハ、定、ト、名、ク、微、々、心、所、熏、ノ、種、子、ニ、能、ク、未、來、前、六、識、ノ、現、行、ヲ、妨、止、ス、  
 ル、功、能、カ、ア、ル、ニ、依、リ、コ、ノ、無、心、定、ニ、住、ス、コ、ノ、厭、心、種、子、ノ、上、ニ、コ、ノ、定、ヲ、假、立、ス、ル、ナ、  
 リ、  
 滅、盡、定、ト、ハ、有、ル、無、學、又、ハ、有、學、ノ、聖、者、色、界、第、四、禪、マ、テ、ノ、貪、ヲ、斷、シ、乃、至、無、色、界、ノ、第、  
 三、無、所、有、處、マ、テ、ノ、貪、ヲ、伏、シ、若、ク、ハ、滅、シ、止、息、想、ノ、作、意、ヲ、行、相、ト、シ、テ、不、恒、行、ナ、ル、前、  
 六、識、ノ、心、々、所、及、ヒ、第、七、ノ、染、汚、ヲ、滅、ス、ル、無、漏、定、ナ、リ、コ、レ、心、々、所、ヲ、滅、ス、ル、定、ナ、レ、バ、  
 滅、盡、ト、名、ク、加、行、位、偏、ニ、受、ト、想、ト、ヲ、厭、フ、ニ、ヨ、リ、テ、亦、滅、受、想、ト、モ、名、ク、身、ヲ、安、和、ナ、ラ、  
 シ、ム、レ、ハ、定、ト、名、ク、其、厭、心、ノ、種、子、ニ、假、立、ス、ル、コ、ト、无、想、定、ニ、同、シ、  
 睡、眠、與、悶、絶、ト、ハ、是、レ、亦、前、六、識、不、起、ノ、分、位、ナ、リ、睡、眠、ト、ハ、極、重、ノ、睡、眠、ノ、位、ヲ、云、フ、睡、  
 眠、ノ、心、所、ヲ、云、フ、ニ、ハ、非、ズ、コ、ノ、心、所、ア、ル、ト、キ、ハ、有、心、ナ、ル、カ、故、ニ、即、チ、疲、羸、等、ノ、緣、ニ、  
 引、カ、レ、タ、ル、身、位、ニ、前、六、識、ヲ、起、サ、ル、位、ハ、彼、ノ、睡、眠、ノ、心、所、ニ、由、リ、テ、至、リ、コ、ノ、心、所、ニ、  
 似、タ、リ、故、ニ、睡、眠、位、ト、云、フ、悶、絶、ト、ハ、第、八、識、ノ、境、タ、ル、微、細、ノ、觸、處、ニ、シ、テ、即、チ、風、熱、等、

ノ縁ニヨリテ引レタル身位ニ亦前六識ヲ滅スル位アリ、之ヲ悶絶位ト云フ  
コノ五位ニ意識起ラズ五位ノ外ニハ意識一切時常ニ起ル之ヲ第九ノ起滅門トス  
ルナリ、以上三能變了ル

(貳) 正ク唯識ヲ辨ス

上來三能變ノ識相ヲ明シテ客標ノ此能變唯三等ノ三句ヲ廣釋シ了レリ、次ニ是諸  
識轉變分別所分別、由此彼皆無故一切唯識ノ一頌ハ、略標ノ彼依識所變ノ一句ヲ擴  
メテ正シク唯識ノ義相ヲ分別ス、是レ略標ニ於テ識所變ニ依リテ我法ヲ假立スル  
コトヲ說ケルカ故ニ、今ソノ識變ナル理ヲ辨明シテ識變ナルカ故ニ唯識ノミアル  
コトヲ示ス、此一頌ヲ解釋スルニ護法、安慧、難陀其說ヲ異ニスレトモ今ハタ、護法  
論師ノ說ニ依リテ說明スヘシ、其餘ノ說ハ客標ノ下(四二頁)ニ准シテ知ルヘシ  
是諸識轉變分別所分別トハ唯識ヲ釋シ由此彼皆無故一切唯識トハ唯識ヲ結ス、是  
諸識トハ前來明シタル所ノ三能變ノ八識及ヒ其相應スル心所ヲ指ス、其心々所ノ  
自體分、ソノ縁用ヲ起シタルヲ未タ之ヲ起サ、ルニ對シテ轉變ト云フ、即チ自體分  
轉變シテ能縁ノ用トナリ所縁ノ用トナルヲ云フ、是レ心法ノ作用ハ能縁所縁ヲ具  
シテ方メテ全キモノナレハ、其作用ヲ起セハ則チ必ス能縁所縁アリ、即チ見分及ヒ  
相分ナリ、此見相分ハ所轉變ニシテ能轉變ハ即チ自體分ナリ、能變所變ト云フト雖  
別體アルニ非スタ、體用相對シテ之ヲ談スルノミ、分別トハ其能縁ノ見分ニシ  
テ所分別トハソノ所縁ノ相分ナリ、是レ見分ハ能ク所變ノ境相ヲ緣シテ種々ノ分  
別ヲナシ、相分ハ能分別ノ見分ニ分別セラル、カ故ナリ  
凡ソ諸法多シト雖モ能縁ト所縁トノ二ヲ出テス、眼ノ視テ色トナシ耳ノ聽キテ聲  
トナシ鼻ノ嗅キテ香トナシ舌ノ嘗メテ味トナシ身ノ觸レテ冷煖トナシ意ノ思慮  
シテ法トナスモノ皆是レ所縁ナリ、其法ノ中事アリ理アリ實アリ、假アリ、之ニ對シ  
テ色ナリト了シ聲ナリ香ナリ味ナリ觸ナリト知リ事理假實ノ法ナリト思慮スル  
モノ即チ能縁ナリ、而シテ其所縁ナルモノハ能縁ヲ離レテ有ルコトナシ能縁アリ  
テ方メテコレアルナリ、若シ能縁ナシトセンカ所縁亦アルコトナシ、且ク吾人眼ヲ  
閉チテ縁セサラハ色ナルモノアルコトナク、耳ヲ塞キテ縁セサラハ聲ナルモノア  
ルコトナシ、乃至熟睡又ハ悶絶シテ意識縁セサラハ事理假實ノ諸法アルコトナシ、  
是ノ如ク吾人ノ諸識スヘテ滅シテ縁用ヲ起サスト假定セハ吾人ノ對象ハ一物モ

シテ方メテ全キモノナレハ、其作用ヲ起セハ則チ必ス能縁所縁アリ、即チ見分及ヒ  
相分ナリ、此見相分ハ所轉變ニシテ能轉變ハ即チ自體分ナリ、能變所變ト云フト雖  
別體アルニ非スタ、體用相對シテ之ヲ談スルノミ、分別トハ其能縁ノ見分ニシ  
テ所分別トハソノ所縁ノ相分ナリ、是レ見分ハ能ク所變ノ境相ヲ緣シテ種々ノ分  
別ヲナシ、相分ハ能分別ノ見分ニ分別セラル、カ故ナリ  
凡ソ諸法多シト雖モ能縁ト所縁トノ二ヲ出テス、眼ノ視テ色トナシ耳ノ聽キテ聲  
トナシ鼻ノ嗅キテ香トナシ舌ノ嘗メテ味トナシ身ノ觸レテ冷煖トナシ意ノ思慮  
シテ法トナスモノ皆是レ所縁ナリ、其法ノ中事アリ理アリ實アリ、假アリ、之ニ對シ  
テ色ナリト了シ聲ナリ香ナリ味ナリ觸ナリト知リ事理假實ノ法ナリト思慮スル  
モノ即チ能縁ナリ、而シテ其所縁ナルモノハ能縁ヲ離レテ有ルコトナシ能縁アリ  
テ方メテコレアルナリ、若シ能縁ナシトセンカ所縁亦アルコトナシ、且ク吾人眼ヲ  
閉チテ縁セサラハ色ナルモノアルコトナク、耳ヲ塞キテ縁セサラハ聲ナルモノア  
ルコトナシ、乃至熟睡又ハ悶絶シテ意識縁セサラハ事理假實ノ諸法アルコトナシ、  
是ノ如ク吾人ノ諸識スヘテ滅シテ縁用ヲ起サスト假定セハ吾人ノ對象ハ一物モ

存在スルヲナシ、果シテ然ラハ宇宙ノ大ヨリ毫末ノ微ニ至ルマテ一切ノ諸法ハ唯  
是レ能縁心ノ所發現ニシテ心識ヲ離レテ存在スルモノアルコトナシ、(頌文ハ體用  
相對シテ明スカ故ニ能縁分別ヲ以テ尙ホ所變ニ屬ス、今ハ用ヲ體ニ皈シテ之ヲ明  
ス)故ニ是諸識轉變分別所分別ト云フ

由此彼皆無トハ前句ニ云ヘル所ノ義ヲ指シテ此ト云ヒ、我法ヲ彼ト名ク、前ニ云ヘ  
ルカ如ク一切ノ諸法ハ能縁心ノ所變ニシテ其能縁心亦識體ノ上ノ作用ナレハ識  
ヲ離レテ一法モアルコトナシ、此義ニ由ルカ故ニ彼イハユル心外ノ實我實法ナル  
モノハ只假リニ能所縁ノ見相二分ヲ既キタルモノニシテ二分ヲ離レテ別ニ其體  
アルニ非ス、既ニ見相分ノ外ニ我法ナキカ故ニ一切ノ有爲無爲假實ノ諸法皆識ヲ  
離レス唯識ノミナリ故ニ故一切唯識ト結ス

此一切唯識ニ就キ論七廿丁(疏七末八丁)已下九難義トテ九ヶ條ノ難問ヲ擧ケテ之  
ヲ答釋シ以テ諸法唯識ノ旨ヲ成立セリ、今左ニ其大意ヲ容説スヘシ

(一)唯識所因難 難シテ云ク唯識ノ旨ヲ成立スルハイカナル教理ニ因ルカ 答ヘ  
テ云ク數證多々ナレトモ且ク六經ヲ以テ證トシ、其理ハ四ヶノ比量ヲ以テ證成ス

ヘシ

六教トハ

- 一、十地經華嚴經云三界唯心
- 二、解深密經云識所縁唯識所現
- 三、楞伽經云諸法皆不離心
- 四、維摩經云有情隨心垢淨
- 五、阿毘達磨經云成就四智菩薩能隨悟入唯識無境等
- 六、厚嚴經云心意識所縁皆非離自性故我説一切唯有識無餘

四比量トハ

- 一、極成眼識定不親縁離自色境五識隨一攝故如餘四識
- 二、極成意識定不親縁離自諸法了別性故如眼等識
- 已上ノ二量ハ心外ノ境ハ内心ノ所縁ニ非サルコトヲ成ス
- 三、六識親所縁定不離六識親所縁能縁隨一攝故如能縁
- 四、六識親所縁定不離六識所縁法故如相應法

已上ノ二量ハ心内ノ境ハ識ヲ離レサルコトヲ成ス

又玄奘三藏此論意ニ依リテ一比量ヲ立テタリ、云ク

真故極成色不離眼識自許初三攝眼所不攝故如眼識

唯識論講義

(二) 世事乖宗難 難云世間ノ現事ヲ見ルニ(一) 場處一定ス、例セハ富士山ヲ見ル眼識ハタ、富士山ノ見ユル處ニ於テノミ起リテ其餘ノ處ニ於テハ起ラサルカ如ク、斯ク一定ノ處アリテ何レノ處ニテモ見ルコト能ハサルハ、富士山ナル實境アル所以ニ非スヤ、若シ心外ノ實境ナクシテ心生スルコトヲ得ハ、何ニヨリテ何レノ處ニ於テモ之ヲ見ルコトヲ得サルカ、(二) 時間亦一定ス、例セハ大陽ヲ見ル眼識ハタ、晴天日中ノ時ノミ之ヲ見テ、雨天夜中等ノ時ニハ之ヲ見ルコト能ハス、是レ心外ニ大陽ナル實境アル所以ニ非スヤ、若シ唯識無境ナラハ晴雨晝夜ヲ簡ハス何時モ之ヲ見ルコトヲ得ヘシ、(三) 有情決定セス、例セハ多數人相集リテ同時同處ニ在リテ櫻花ヲ見ルトセンカ、只決定シテ一人ノミ之ヲ見ルニ非スシテ諸人俱ニ之ヲ見ル、斯ク一人ニノミ決定セスシテ諸人之ヲ見ルハ心外ニ實境アル所以ニ非スヤ、(四) 外界ノ境作用アリ、若シ唯識無境ナラハ一切ノ境皆作用ナカルヘシ、例セハ眼病者ノ天華亂墜ノ如キ夢中ノ飲食等ノ如キ、實境ナキカ故ニソノ作用ナシ、現在ノ諸境ハ各其作用アリ、斯ク作用アルハ心外ニ於テ實境アル所以ニ非スヤ、答云(一) 心外ニ實境ナシト雖モ場處一定セサルニ非ス、噲ハ彼夢中ノ如キ夢ミル心ノ外ニ實境アルニ非レトモ、其ノ境ヲ見ルノ處一定スルカ如シ、サレハ處ノ一定スルハ外ニ實境アルノ理由トハナラスシテ、心外ニ實境ナキモ其ノ處一定スルニ何ノ不可アラソ、(二) 時間ノ一定スルモ前ニ例シテ知ルヘシ、夢中ノ境其實ナキモ其境ノ見ル時一定スルカ如シ、(三) 心外ニ實境ナクレトモ自他相似ノ業ノ所感ナルカ故ニ互ニ増上緣トナリテ同一ノ如ク之ヲ緣ス、例セハ同業感ノ餓鬼ノ所見ノ如シ、(四) 實境ナクレトモ所緣ノ境ニ於テ必シモ其作用ナキニ非ス、彼夢中ニ於テ煩悶シ流汗シ遺精スル等ノ如シ、サレハ時處一定シ多有情同緣シ、境ニ作用アルカ如キハ心外ニ實境アルノ所以トハナラスシテ多境ナキモ時處一定シ多有情同緣シ作用アルコトヲ得ルナリ、若シ定メテ實境アリト云ハ、何ニヨリテ同一物ヲ緣スルニ、甲乙其所見ヲ異ニシ、丙丁其感受ヲ同クセサルヤ、

(三) 聖教相違難 難云若シ心外ニ色等ノ實境ナクンハ、佛世尊聖教ノ中ニ色等ノ十

唯識論講義



二處アリト説クヘカラス、既ニ之アリト説ク、是レ色等ノ實法アル所以ニ非スヤ、答云十二處アリト説クル教文ハ佛ニ於テ別ニ密意趣ノアルアリ、凡ソ佛ノ説法ハ必ス所對機ヲ鑑ミテ之ニ投スルカ故ニ、或ハ顯了ニ直説スルアリ、或ハ密意趣ヲ存シテ直説セサルアリ、十二處アリト説クルハ其密意趣ヲ存セルモノナリ、密意趣トハ内界ノ六識カ各自ノ種子ヨリ現行スルトキ其識ノ上ニ色等ノ相ヲ變起ス、ソノ色等ハイカニモ心外ノモノラシク起レトモ、識ノ所變ナレハ識ニ離レテコレアルニ非ス、故ニ其能生ノ種子及ヒ所變ノ相分ニ依リテ内ノ六處、外ノ六處アリト説ク、(其實種子ハ内ノ六處ニ非サレトモ)其之ヲ説クルハ所對ノ機之ヲ聞キテ利益ヲ得ヘキモノナルカ故ナリ、利益トハ即チ能ク生空無我ヲ悟入スルナリ、其故ハ六識ハ内ノ六根處ト外ノ六境處ト和合シタルトキ其根境ニ從ヒテ生シテ色ヲ見乃至法ヲ知ルノミニン、別ニ常一主宰ノ我ナル見者乃至知者アルニ非スト、了知スレハ、實我ノ執情悉ク除遣スレハナリ、二乗根性ノ者ヲシテ之ヲ聞キテ生無我ノ正理ヲ悟リ二乘ノ果ヲ得セシム、是レ密意ヲ以テ十二處ノ教ヲ説クル勝利益ナリ、サレハ色等ノ十二處アリト説クルハ心外ニ實ノ色等アリト云ニハ非ス、其心外ニ實ノ色等

ノ法ナキヲ知ラシメンカ爲ニハ更ニ復タ唯識ノ教ヲ説ケリ其唯識ノ教ヲ受クル者ハ能ク諸法無我ヲ悟入ス、何者一切ノ法ハ唯識ノ所變現ニシテ色等ノ諸法ニ假テ生シテ實ノ体用アルニ非スト、了知スレハ、實法ノ執情悉ク除遣スレハナリ、菩薩根性ノ者ヲシテ之ヲ聞キテ法無我ノ正理ヲ悟リ佛果ヲ成スルヲ得セシム、是レ心外ノ諸法ハ空ニシテ唯識ノミナリト説クル教ノ勝利益アリ、而シテ彼十二處ノ教ハ密意ノ説ナレトモ此唯識ノ教ハ顯了ノ直説ナリ

(四)唯識成空難 難云若シ能ク法空ヲ了知セシメンカ爲メニ唯識ヲ説クト云ハ、其識モ畢竟空無ナルニ非スヤ、答云誰カ云フ法空トハ、一切諸法畢竟都無ニシテ識モ亦空無ナリト知ルヲ云フナリトハ、今云フ所ノ法空無我トハ凡愚ノ執著スルカ如キ固定ノ諸法ハ都無ナリト了達スルヲ云フ、是レ心外定實ノ遍計所執ヲ遣ルノミニシテ根本後得二智ノ境タル心内ノ事理依他圓成ノ法マテテ空無スルヲ法無我ト名クルニハ非ス、故ニ唯識ト云フモ偏空トナルノ憂ナシ

(五)色相非心難 難云色等モ識ヲ以テ体トセハ形礙ノ色相ナカルヘシ然ルニ有形ノ物ナリ何ソ唯識ナランヤ、答云其色相アルハ無始ヨリ妄ニ有形ナリト執シテ

習セシカ故ニ、其妄分別熏習ノ勢力ニヨリテ復ク色相ニ似テ生起ス、故ニ心外ノ實境ニ非ス

(六)現量爲宗難 難云色等ノ外境ハ現量ヲ以テ分明ニ證知ス、現量知ノモノハ確實ニシテ謬リナシ、若シ外境ナクンハ何ソ現量ヲ以テ緣シテ色等ナリト云フ覺知アラソヤ、答云現量ハ謬リナシト雖モ、五識現量ニ證知スルトキハ心内ノ相分ノミニシテ心外ノ實境ナリトノ想ヒナシ、實ノ色等ナリトノ想ヒヲナスハ後ノ意識ノ妄分別ニシテ現量ニハ非ス、故ニ色等ナリトノ覺知ヲ生スルハ心外ニ實境アルノ理由トハナラス、例セハ夢中ノ所緣ハ現ニ色ナリ聲ナリ等ノ覺知ヲ起セトモ實境ニ非サルカ如シ

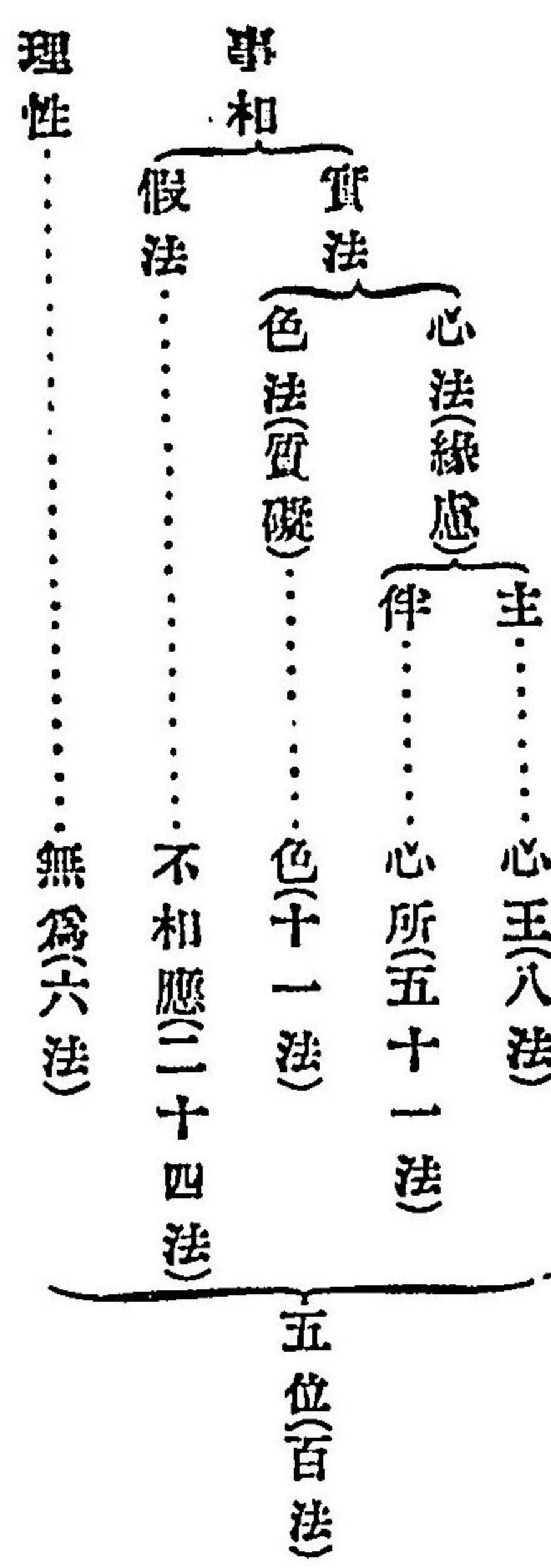
(七)夢覺相違難 難云夢中ノ境ヲ以テ現在覺時ノ境ヲ例スレトモ、夢境ハ覺メテ後チ其妄境ナリシコトヲ知ル、覺時ノ境若シ實境ニ非スンハ亦ソノ實境ニ非スシテ心内ノモノナルコトヲ知ルヘシ、然ルニ覺時ノ境ニ在リテハ之ヲ知ラス、何ソ夢境ヲ以テ例スルコトヲ得ンヤ、答夢境モ其夢覺メサル間ハ自ラ其妄ナルコトヲ知ラス、之ヲ知ルハ覺後ニアリ、現在覺時ノ境モ亦然リ、豁然醒覺ノ曉ニ至ラハ亦其妄ヲ知ル、凡愚ノ之ヲ心内ノ境ナリト知ラスシテ實法ナリト執スルハ、尙ホ生死長夜ノ夢中ニ在リテ、未タ眞覺菩提ノ知見ヲ開カサルカ故ナリ、

(八)外取他心難 難云外界ノ色等ハ實體ナクシテ内界ノ識所變ナルヘシト雖モ、他人ノ心識ハ自心ノ外ニ於テ其體アリ、若シ心外ノ實境ヲ緣セスト云ハ、他心ハ自所緣ニ非サルヘシ、然ルニ之ヲ緣スル他心智アリト云ヘリ、若シ之ヲ緣セハ心外ノ實境ヲ緣シテ唯識ニ非サルヘシ、答云他心智アリテ他人ノ心識ヲ緣スト雖モ、是レ亦親シク緣スルニハ非ス、自心ノ中ニ他心ノ影像ヲ現シテ之ヲ緣スルノミ、尙ホ自心ノ範圍内ヲ出テス、心外ノ境ヲ緣スルノ失ナシ、

(九)異境非唯識 難云親緣ニ非スト雖モ自心ノ外ニ他心ノ異境アラハ唯識ニ非サルニ非スヤ、答云唯識ト云フハ唯一人ノ識ノミナリト云フニハ非ス、十方世界無數ノ凡夫無量ノ聖者アリ、無數量ノ凡聖アリト雖モ人々皆唯識ニシテ各其心ヲ離レテ外ニ一法モアルコトナシ、甲ノ者ニアリテハ一切諸法皆ソノ識心ヲ離レス、乙ノ者ニ在リテモ一切諸法皆亦其識心ノ内ニアリ、抑、唯識トハ凡愚ノ迷情ニテ外界ニ於テ實ニ存在スト執スル我法ヲ遮簡シテ、内界識心ノ諸法ノミナルコトヲ表顯ス

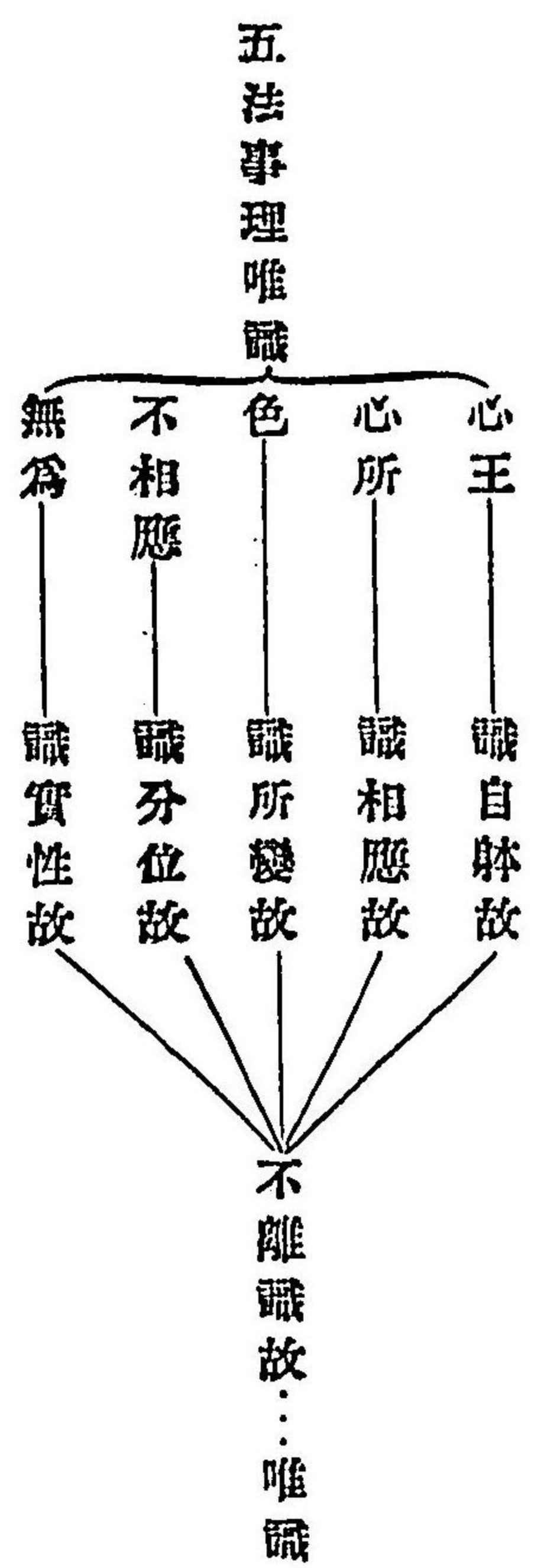
唯 識 論 講 義

ルノ語ナリ、凡ソ一切諸法多シト雖モ之ヲ類別シテ五種トス、心王、心所、色、不相應、無爲ナリ、此中前四種ハ諸法ノ事相顯象ニシテ、第五ノ無爲ハ諸法ノ理性本體ナリ、事相ノ中前三ハ種子所生ノ實法ニシテ、第四ノ不相應ハ實法ノ或ル區分或ル位置ニ名ヲ立テタル假法ナリ、其實法ノ中前二ハ緣慮ノ作用アル心法ニシテ、第三ノ色ハ實礙ノ作用アルモノナリ、ソノ心法ノ中第一ノ心王ハ主體ニシテ、第二ノ心所ハソノ伴屬ナリ、此五種ヲ五位ト名ク、圖表スレハ左ノ如シ、



已上ノ五位ノ法アリト雖モ皆識心ヲ離レサルカ故ニ唯識ナリ、是レ總シテ識ヲ離レサル義ヲ以テ唯識ヲ談スルカ故ニ之ヲ總門ノ唯識ト云フ、何ニヨリテ識ヲ離レサルカ、謂ク心、王ハ識ノ自體ナリ、心所ハ識ノ相應ナリ、色ハ識ノ所變ナリ、不相應ハ識ノ分位ナリ、無爲ハ識ノ實性ナルカ故ナリ、是レ五位ニ就キテ別々ニ唯識ノ義ヲ談スルカ故ニ之ヲ別門ノ唯識ト云フ、圖表スレハ左ノ如シ、

別門唯識 總門唯識



斯クノ如ク辨明シ來レハ他心ノ異境アリト雖モ人人各自ノ唯識ナレハ唯識ノ旨ニ違フコトナク、又心内ノ法ハ万差無量アリト雖モ亦唯識ノ教理ニ違フコトナシ、唯識トハ只是レ心外ノ實我實法ヲ遮スルノミ、已上略シテ九難義ノ大旨ヲ説ケリ、其詳細ニ至リテハ此論疏及ヒ二十唯識ノ論疏ヲ披クヘシ、

(參) 妨難ヲ通釋ス

唯 識 論 講 義

上來唯識無境ノ旨ヲ成立セシヲ以テ、之ニ就キテ種々ノ妨難アリ、即チ理ニ違スト云フ難アリ、教ニ違スト云フ難アリ、此ヨリ下ノ七頌之ヲ通釋ス、是レ即チ略標ノ由假設我法有種々相轉ノ二句ヲ敷演シテ辨明スルナリ、中ニ於テ初二理ニ違スト云フ難ヲ通シ、後ニ教ニ違スト云フ難ヲ釋ス、

(初) 違理ノ難ヲ釋ス

此中先ツ種々ノ分別即チ心々所ノ生起スル緣由ヲ通釋シ、后ニ諸ノ有情ノ生死相續スル緣由ヲ解説ス、

(二) 心法生起ノ緣由

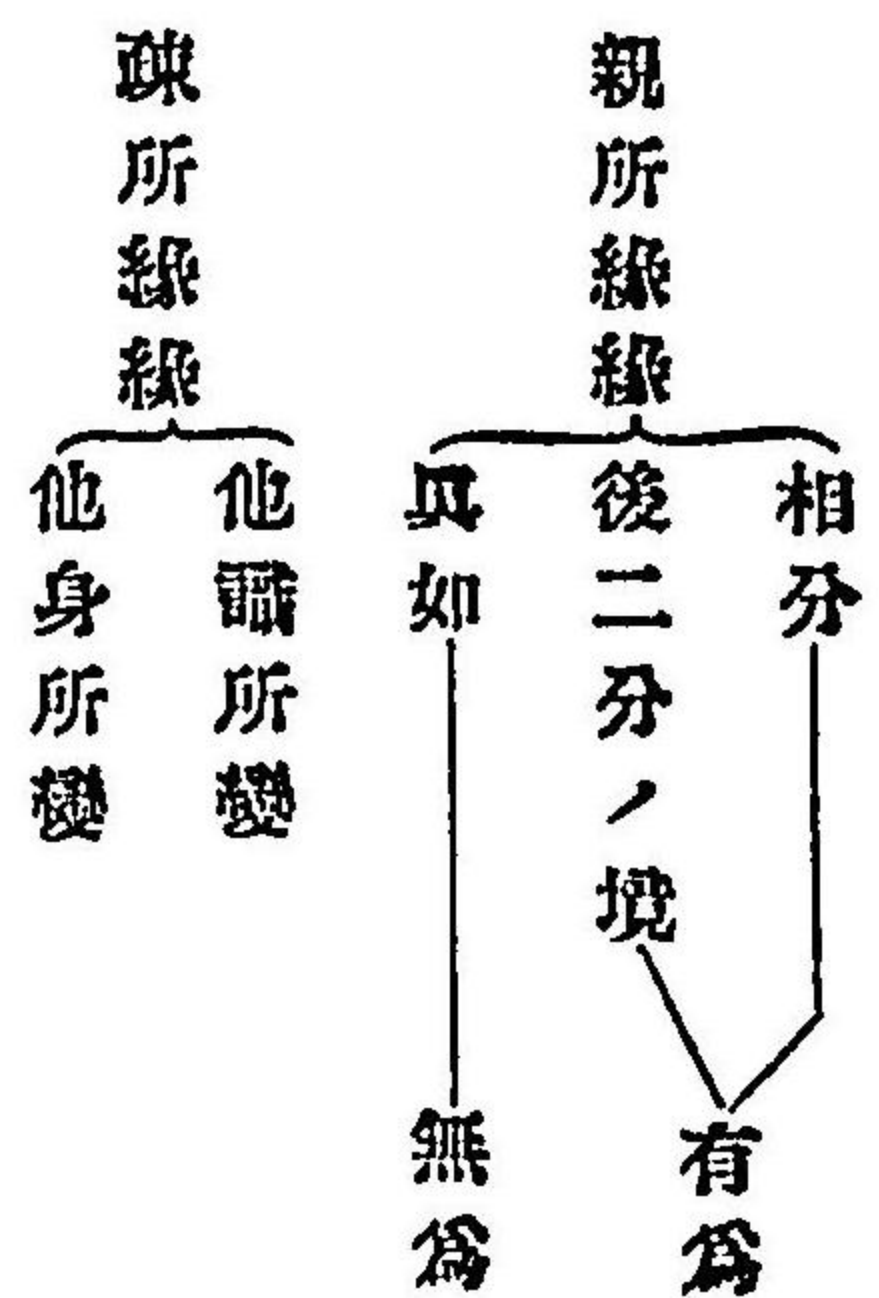
心々所ノ生起スルハ其所緣ニ託ス、若シ內心ノミニシテ心外ノ境ナクンハ、何モノカソノ所緣ノ境トナリテ内界ノ諸ノ分別心ヲ生スルカ、此難アルカ故ニ頌文之ヲ通釋シテ心法生起ノ緣由ヲ示ス、云ク、

由一切種識如是如是變以展轉力故彼彼分別生ト、前三句ハ能生ノ緣由ヲ明シ、第四句ハ所生ノ分別心ヲ明ス、前三句ノ中初二句ハ分別ノ生スルハ種子ヲ因トスルコトヲ明シ、後ノ一句ハ分別ノ生スルハ現行ヲ緣トスルコトヲ明ス、即チ前ハ親因緣ニシテ後ハ増上ノ助緣ナリ、

凡ソ諸法ノ生起スルニ其緣四種アリ、今略シテ之ヲ説クヘシ、

- (一) 因緣：有爲法ノ生スルニ就キテ最モ親シキ關係ヲ有スル眞原因ナリ、之ヲ緣ト名クレトモ其果ニ對スル助緣ト云フ意ニハ非ス、因即チ緣ナリ、此ニ二類アリ種子ト現行トナリ、種子ハ第八識中ニ伏在スル所ノ色心三性等各自ノ現行ヲ起シ、及ハ自類ノ種子ヲ引クモノニシテ、即チ種子生現行、種子生種子ノ因果ナル場合ノ能生ノ種子ナリ、現行ハ七轉諸識ノ三性等各自ノ現行能ク其種子ヲ熏生スルモノニシテ現行熏種子ノ因果ナル場合ノ能熏ノ現行ナリ、種子性現行、現行熏種子ノコト六二頁已下詳説スルカ如シ、
- (二) 等無間緣：後時ノ自類ノ心々所ヲ開導スルモノニシテ、即チ後心ノ續起スル緣ナリ、是レ前心避ク去リテ其位置ヲ與フルニ非サレハ後心生起スルコト能ハサルカ故ニ前心ハ後起ノ心ノ緣トナルナリ、其前ノ心々所ト後起ノ心々所ト其昧用齊等ニシテ中間ニ隔リナキカ故ニ等無間ト云フ、
- (三) 所緣緣：心々所ノ所慮所託即チ對境トナルモノニシテ、是レ心々所ノ現起スル

線ナリ、凡ソ心ノ生シテ緣慮ノ用ヲ起スハ必ス緣慮セラル、境ニ杖託ス、所緣ノ境  
ナクソハ心生スルコト能ハス、故ニ所緣ノ境ハ心法生起ノ緣ナルカ故ニ所緣線ト  
云フ、此ニ二類アリ親所緣線ト疎所緣線トナリ、親シク所慮所託トナルモノヲ親所  
緣線ト云ヒ、疎ク所杖ノ本質トナリテ親シキ所慮託ヲ引キ起スモノヲ疎所緣線ト  
云フ、其種類左ノ如シ



(四) 増上線：諸法ノ生起スルニ就キテ力ヲ與ヘ又ハ障礙トナラサル有縁法ナリ、前  
三線ノ如キ亦増上ノ線ト云フコトヲ得レトモ、既ニ別ニ之ヲ立ツルカ故ニ、前三線  
ト生起スル果法ソノモノトヲ除キテ餘ノスベテノ有爲無爲ノ諸法ノ、生起スル法  
ニ力ヲ與ヘ又ハ障礙ヘサルモノナレハ皆コノ増上線ナリ、タゞ障礙ヘサルノミニテハ、

生起ノ線トハナラサルカ如クナレトモ、若シ他ニ障礙スルモノアルトキハ生起セ  
サルカ故ニ、障ヘサルハ亦疎ク其生起スル線トナルト云フヘシ、  
已上四種ノ中、等無間、所緣ノ二線ハ心法ノ起ルニ局リ、因緣ト増上線トハ色心諸法  
ノ生スルニ通ス、サレハ色法ハ因ト増上トノ二線ニ依リテ生シ、心法ハ具ニ四線ヲ  
藉リテ生ス、心法四線ノ所緣線ノ中、親所緣線ハ必有ナレトモ、疎所緣線ハ有無不定  
ナリ、又此四線ヲ親因助緣ニ分對セハ、因緣ハ親因ニシテ餘ノ三線ハ増上ノ助緣ナ  
リ、更ニ十因ヲ明シテ四線トノ相攝ヲ示シ、五果ヲ説キテ四線十因ニ對シテ其所得  
ヲ示スコトハ論八丁已下ノ如シ

一切種識トハ第八識中ニ伏在スル所ノ能ク一切諸法各自ノ現行ヲ發生スヘキ作  
用即チ種子ナリ、之ヲ識ト名クルハ此種子ハ第八識體ノ作用ナレハ用ヲ以テ體ニ  
從フカ故ナリ、如是如是變トハ變ハ轉變ニシテ發生ノ能未ク熟セサル位ヨリ轉變  
シテ已熟發現ノ位ニ至レルヲ云フ、其轉變スル種子衆多ニシテ一ニ非サルカ故ニ  
重テ如是如是ト云フ、是レ即チ分別ノ心生スル親因ナリ、展轉カトハ現行ノ諸法彼  
此互ニ展轉シテ、甲ハ乙ヲ助ケ乙ハ甲ヲ資ケテ相助成スル勢力ヲ云フ、展轉ノ義ニ

次第展轉ト互相展轉トアリ、今ハ互相展轉ノ義ナリ、是レ分別心ノ生スル助緣ナリ、  
 タトヒ内ニ親因ノ種子アリト雖モ外ニ之ヲ助クル緣カアルニ非サレハ分別ノ心  
 法生スルコト能ハス、之ヲ助クルモノ即チ現行ノ展轉力ナリ、是ノ如ク分別心ノ果  
 ニ對シテ種子ヲ親因トシ現行ヲ助緣トスルハ泛說ニシテ、若シ之ヲ四緣ニ就キテ、  
 細辨スレハ、種子ハ現行ノ心々所ヲ生スルニ因緣、所緣緣及ヒ増上緣ノ三緣トナル、  
 即チ各々其自果ヲ生スル名言種子トナル點ハ因緣ニシテ、第八識及ヒ第六識ニ緣  
 托ヒラル、點ハ所緣緣ナリ、又自果ニ非サル他ノ心々所ノ生スルニ於テ力ヲ與ヘ  
 (根ノ種ヲ識ニ望ムル等ノ如キ)或ハ障礙セサル(甲識ノ種ヲ乙識ニ望ムル等ノ如キ)  
 カ如キハ是レ増上緣ナリ、其現行ノ心々所ハ展轉相望ムルニ所緣緣等無間緣及ヒ  
 増上緣ノ三緣トナル、即チ自他身相望メテハ所緣、増上ノ二緣トナリ、一身ノ中自他  
 識相望メテハ亦所緣、増上ノ二緣トナリ、(増上緣トナルコトハ必定ナレトモ所緣緣  
 トナルコトハ不定ナリ)自識ノ前後相望メテハ所緣、増上ノ二緣トナリ、(所緣緣ハ第  
 六識ニ局ル)自識ノ後心ニ望メテハ等無間緣トナルナリ、斯ク種子ト現行トヲ以テ  
 能生ノ緣由トスルカ故ニ由以故ト云ヘリ、此因緣和合スルカ故ニ種々ノ分別生ス

ルコトヲ得之ヲ彼。彼。分別。生。ト云フ、彼、彼、トハ其類多キコトヲ顯ス、分別、トハ有漏心  
 ノ異名ニシテ現行ノ諸八識及ヒ其相應スル心所ヲ總稱ス、今ハ有漏ニ就キテ心法  
 生起ノ緣由ヲ明セトモ、無漏心ノ生起スルモ亦有漏ニ同ク種子ノ因ト現行ノ緣ト  
 ニ由ル、既ニ心内ノ種子ト現行トヲ緣トスルカ故ニ心外ノ實境ナシト雖モ種々ノ  
 心々所ヲ生スルニ毫モ不可アルコトナシ、

(ろ)有情相續ノ緣由

有情ノ三界ニ生死シテ相續流轉スルハ善惡ノ諸業ニ由リ、業ヲ造ルハ貪瞋等ノ煩  
 惱ニ由リ、煩惱ヲ起スハ外界ニ順情違情ノ實境アルニ由ルナリ、心外ノ實境アリテ  
 コソ之ヲ緣シテ貪瞋等ノ煩惱ヲ起シ而モ種々ノ業ヲ造リテ生死相續スルコトヲ  
 得ルナレ、若シ唯識ノミニシテ心外ノ實境ナクハ何ニ緣リテ惑ヲ起シ業ヲ造リ  
 テ生死相續スルコトヲ得ルカ、是レ唯識違理ノ二難ノ第二難ナリ、頌文之ヲ釋シテ  
 有情相續ノ緣由ヲ明ス、云ク、

由●諸●業●習●氣●二●取●習●氣●俱●前●異●熟●既●盡●復●生●餘●異●熟●ト、前二句ハ相續ノ由ヲ明シ、後二句  
 ハ相續ノ相ヲ明ス、

唯 識 論 講 義

由諸業習氣二取習氣俱トハ之ヲ解スルニ論中四說アリ、第一說ハ福等ノ三業ノ種子ト相見等所熏ノ種子トニ約シ、福非福、不動ノ三業即チ有漏ノ善業、不善業ノ種子ヲ諸業習氣ト云ヒ、相見分等所熏ノ諸法ヲ二取習氣ト云フ、即チ前者ハ業種子ニシテ有情生死ノ異熟果ヲ感スル勝レタル増上緣ナリ、後者ハ名言種子ニシテ異熟果ヲ生スル親因緣ナリト名言種子業種子ノコ此緣ナル諸業ノ習氣ト因ナル二取ノ習氣ト俱時ニアリテ互ニ相助クルニ由リテ異熟ノ果報ヲ感生ス(第二說ハ攝論所說ノ名言、我執、有支ノ三熏習ニ約シ、三有ノ異熟ヲ招ク因即チ業種子ナル有支習氣ヲ諸業習氣ト云ヒ、諸法ノ親因緣ナル名言習氣ト、自他ヲシテ差別ナラシムル我々所執ニヨリテ熏成セラレタル所ノ種子ナル我執習氣トヲ二取習氣ト云フ)第三說ハ十二有支ノ感業、苦ニ約シ、第四說ハ分段、變易ノ二種生死ニ約シテ(生死ノ感因ナル有漏ト無漏トノ二業ノ種子ヲ諸業習氣ト云ヒ、其感緣ナル煩惱ト所知トノ二障ノ種子ヲ二取習氣ト云フ、是レ分段生死ハ諸ノ有漏ノ善惡業ヲ因トシ煩惱障ヲ緣トシテ之ヲ招キ、變易生死ハ諸ノ無漏ノ有分別業ヲ因トシ所知障ヲ緣トシテ之ヲ感スレハナリ)之ヲ釋スレトモ、今ハ且ク十二有ノ感業、苦ニ約スル說ニ依リテ之ヲ說

明スヘシ、

十二有支トハ無明、行、識、名色、六處、觸、受、愛、取、有、生、老、死ナリ、亦之ヲ十二緣起ト云フ、是レ有情ノ生死流轉ノ緣起ナリ、

(一)無明支トハ第六識相應ニシテ能ク善惡ノ業ヲ發造スル愚癡無明ナリ、此ニ二類アリ、異熟愚ト眞實義愚トナリ、異熟愚トハ眼前異熟ノ塵果ニ迷ヒテ其苦ヲ了セサルモノヲ云ヒ、眞實義愚トハ人天ノ果報ヲ執シテ眞樂ト謂ヒ有漏皆苦ノ諦理ノ實義ヲ了セサルモノヲ云フ、異熟愚ニ由ルカ故ニ非福業ヲ發シ眞實義愚ニ由ルカ故ニ福業、不動業ヲ發ス、其正發業ハ分別起ニシテ俱生起ハ助發業ナリ、

(二)行支トハ前ノ無明支ニ發サレタル非福、福、不動ノ三業ニシテ第六識相應ノ思ヲ以テ體トス、非福業トハ不善、福業トハ散善、不動業トハ定善ニシテ俱ニ有漏業ナリ、(業ニ順現、順次、順後アリ、順次、順後業ノ中總報、別報、及ヒ總別報業アリ、今ハ順次、順後ノ總報業ト總別報業トノミヲ取リテ行支トシテ、順現業及ヒ當ノ別報業ヲハ取ラズ、非福業ト惡趣ノ果ヲ感シ、福業ハ欲界善趣ノ報ヲ招キ、不動業ハ上二界ノ果報ヲ感ス、

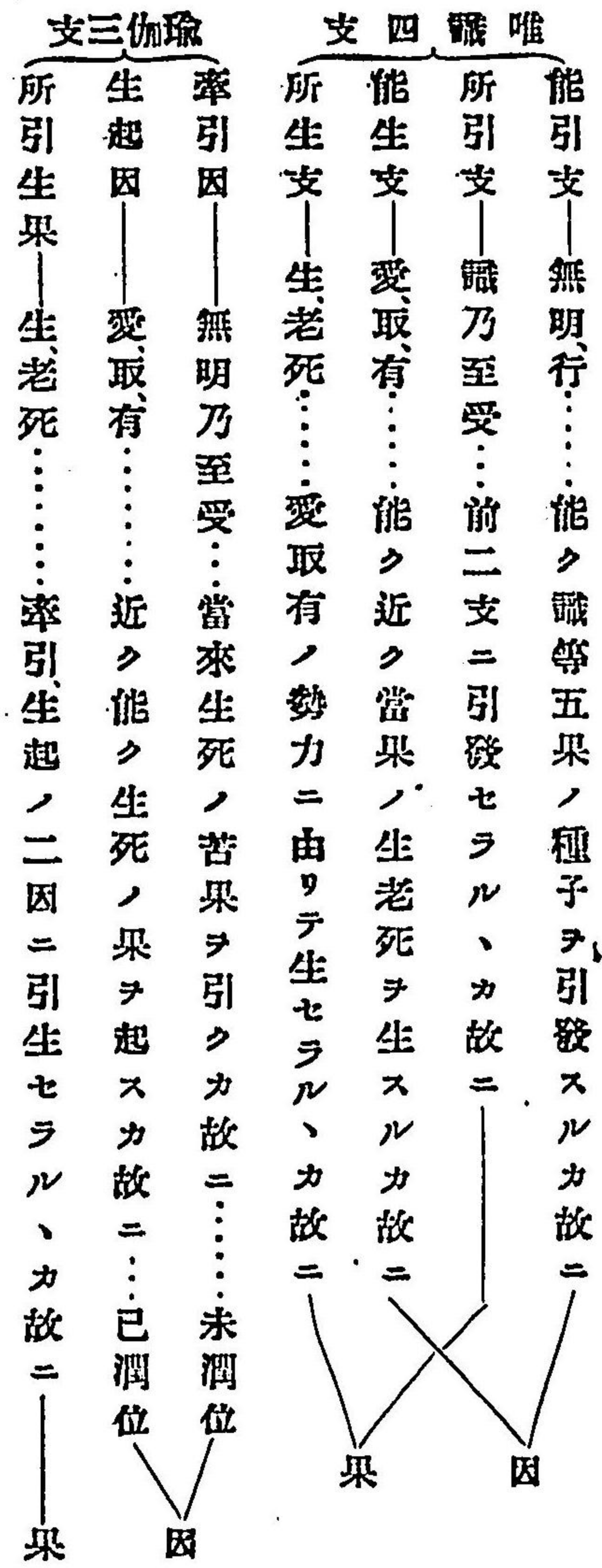
唯 識 論 講 義

- (三) 識支トハ未來三界ノ總報ノ果體第八識ヲ生スヘキ異熟無記ノ種子ナリ
- (四) 名色支トハ是レ亦異熟無記ノ種子ニシテ未來第八識ト六根ト觸ト受トヲ除キ  
ヲ餘ノ五蘊ヲ生スヘキ種子ナリ、
- (五) 六處支トハ未來眼耳鼻舌身意ノ六根處ヲ生スヘキ異熟無記ノ種子ナリ、コノ中  
意根ハ六識ノ等無間ノ意根ニシテ第七意根ニハ非ス、
- (六) 觸支トハ未來異熟無記ノ觸ノ心所ヲ生スヘキ種子ナリ、
- (七) 受支トハ未來異熟無記ノ受ノ心所ヲ生スヘキ種子ナリ、
- 已上識等ノ五支ハ異熟ノ果報ヲ生スヘキ名言種子ナリ、此種子ハ劣弱ナルカ故ニ  
其生スルニハ必ス行支ノ資助ヲ藉ル、ソノ行支ノ種子ハ即チ業種子ナリ、
- (八) 愛支トハ第六識相應ノ俱生ノ下品ノ貪愛ナリ、
- (九) 取支トハ第六識相應ノ俱生ノ上品ノ貪及ヒ一切ノ煩惱ナリ、
- 已上愛取ノ二支ヲ潤生ノ惑ト云フ、是レ前ノ能資助ナル行支ト所資助ナル識支等  
トノ六支ノ種子ハ當果ヲ招クヘキ法ナレトモ、更ニ他ノ潤澤ノ緣ヲ蒙ラサルトキ  
ハソノ果ヲ感スルコト能ハス、喩ヘハ米穀等ノ種子ノ地中ニアレトモ雨露等ノ水

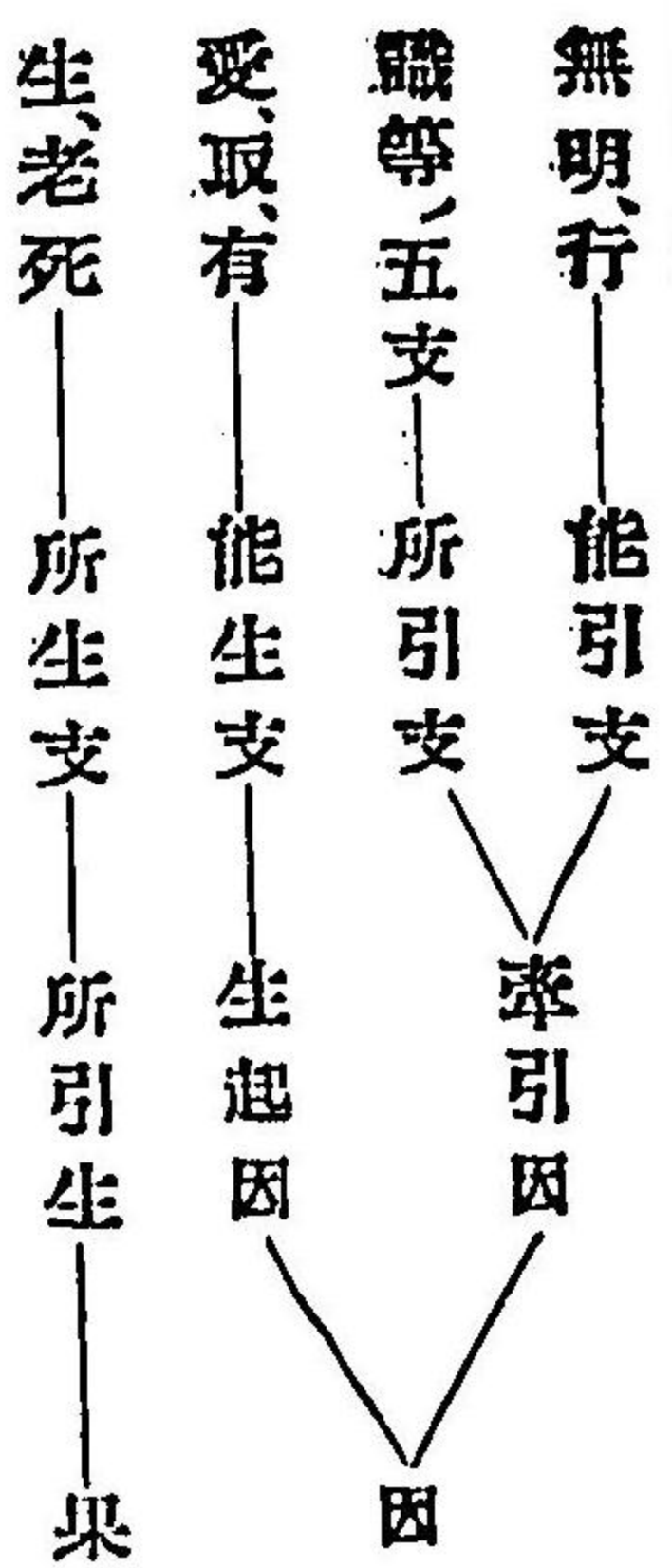
- 潤ヲ受クサレハ萌芽ヲ生スルコト能ハス之ヲ受ケテ方メテ芽ヲ發スルカ如ク、六  
支ノ種子モ潤緣ヲ蒙リテ方メテ能ク現果ヲ生ス、其潤緣トナルモノ即チ此愛取ノ  
二支ナリ、即チ命終ラントスル位ニ於テ下品ノ貪愛自ラ起リテ自體ヲ愛シ境界ヲ  
貪ス、此愛水ニヨリテ六支ノ種子ヲ潤ス此位ヲ愛支ト云フ、是ノ如ク貪愛相續シテ  
終ニ上品ノ貪等ノ諸ノ煩惱ヲ起シテ數、之ヲ浸潤ス此位ヲ取支ト云フ、其潤位ヲ二  
支トスルハ數々スルコトヲ顯ス、喩ヘハ米穀等ノ種子ノ發芽スルモ數々灌溉スル  
ヲ要スルカ如シ、
- (十) 有支トハ行等ノ六支ノ種子カ愛取ノ潤緣ヲ蒙リタル位ナリ、是レ潤緣ヲ蒙リテ  
當果ヲ感招スヘキ力満足決定スルヲ以テ果ヲ有スト云フ、義ニヨリテ有支ト名ク、  
其體ハ即チ行等六支ノ種子ナリ、
- (十一) 生支トハ前ノ有支カ母胎ニ托生スル初刹那ニ於テ正ク果報生ス、此果報ノ五蘊  
未タ衰老セサル已前ヲ總シテ生支ト名ク、
- (十二) 老死支トハ苦果ノ五蘊衰變已後死滅ノ位ニ至ルマテヲ總シテ老死支ト名ク、已  
上生老死ノ二支ハ前ノ識等ノ五支ノ現行シタルモノニシテ此二支ノ名言種子ハ



識等ノ五支ナリ、故ニ識等ノ五支ト此二支トハタ、種子ト現行トノ別ノミ、然ルニ  
 種子ノ位ハ差別ノ相知リ難キカ故ニ當果ノ位ニ寄セテ開キテ五支トナシ、現行ノ  
 位ハ差別ノ相了シ易キカ故ニ合シテ二支トス、  
 此十二支ヲ成唯識論ニハ合シテ能引、所引、能生、所生ノ四支トシ、瑜伽論ニハ牽引因、  
 生起因及ヒ其果ノ三支トス、左ノ如シ、



二論因果ノ對當ヲ異ニスルハ蓋シ唯識ハ異熟非異熟ノ因果ニ約シ瑜伽ハ正熟非  
 正熟ノ因果ニ約スルカ故ナリ、二論ヲ合スレハ左ノ一圖トナル、



之ヲ要スルニ十二支ノ中前十支ハ因ニシテ後二支ハ其果ナリ、コノ十因二果ハ定  
 不同世トテ必スソノ世ヲ異ニス、若シ過現門ニ約スレハ十因ハ過去世ニ在リテ二  
 果ハ現在ナリ、若シ現未門ニ約スレハ十因ハ現在ニシテ二果ハ即チ未來世ニアリ、  
 之ヲ二世一重ノ因果ト云フ、小乘所談ノ十二緣起トハ頗ル其趣ヲ異ニセリ、小乘所  
 談ノ如キハ三世兩重ノ因果ナリ、三世兩重トハ無明、行ノ二支ヲ過去ノ因トシ、識等  
 ノ五支ヲ現在ノ果トス、是レ一重ノ因果ナリ、愛、取、有ノ三支ヲ現在ノ因トシ、生、老、死  
 ノ二支ヲ未來ノ果トス、是レ一重ノ因果ナリ、而シテ過去ノ無明(惑)行(業)ハ現在ノ愛、  
 取(惑)有(業)ニ同ク惑業ニシテ能感ノ因ナリ、現在ノ識等ノ五支ハ未來ノ生、老、死ニ同  
 ク所感ノ苦果ナリ、是ノ如ク三世ニ亘リテ兩重ノ因果ヲ成シ以テ斷常二見ヲ遮シ  
 能ク生死輪轉ノ窮リナキコトヲ顯スト云ヘリ、問小乘所談ノ如ク三世兩重ヲ立

唯 識 論 講 義

ツルトキハ過去ノ前ニ又過去アリテ其始ヲ窮ムヘカラス、未來ノ後ニ又未來アリテ其終ヲ盡スヘカラサルコトヲ類推セシメテ輪轉無窮ヲ顯スコトヲ得ヘシ、何者現在ノ因ノ前ニ果アルヲ以テ過去ノ因ノ前ニモ亦果アリテ因ニ招カレタルコトヲ影顯シ、現在ノ果ノ後ニ因アルヲ以テ未來ノ果ノ後ニモ亦因アリテ其果ヲ引クコトヲ影顯スレハナリ、若シ大乘ノ如ク二世一重ナリトセハ之ヲ顯示スルコト能ハサルニ非スヤ、答大乘所談ノ二世一重ノ因果能ク斷常二見ヲ離レ生死輪轉無窮ノ正理ヲ顯スニ足ル、其故ハ十支ノ因ヲ説クカ故ニ有情ハ自然又ハ常我等ノ所起ニ非ス過去ニ因アリテ其因所生ナリ、二支ノ果ヲ明スカ故ニ有情ハ斷滅スルニ非ス必ス來果ヲ招ク、既ニ因アレハ因ハ必ス其果ヲ招キ、又果アレハ果ハ必ス因ノ所感ナリ、因果感赴ハ必然ノ理ナリトセハ過現相望ノ十因二果ニ就キテハ溯リテ過去際ノ窮リナキコトヲ推知シ、現未相望ノ十因二果ニ就キテハ未來際ノ盡キサルコトヲ類推スルコトヲ得レハナリ、彼三世兩重ヲ立ツルカ如キ寧ロ繁重タルヲ免レンス、其故ハ若シ前際ニ迷フカ故ニ過去ノ二因ヲ説クト云ハ、前々際ニ迷フ者アレハ其又過去ノ因ヲ説カサルヘカラス、又後際ニ迷フカ故ニ未來ノ兩果ヲ説クト云ハ、後々際ニ迷フ者アレハ其又未來ノ果ヲ説カサルヘカラス、前々後々ハ前後際ヲ以テ類推シテ知ラシムト云ハ、二世一重ノ過現門現未門亦以テ之ヲ推知スルニ足レハナリ、故ニ知ヌ二世一重ノ因果其理極成セルコトヲ

唯 識 論 講 義

已上明シ來レル十二有支之ヲ總攝スレハ惑、業、苦ノ三ヲ出テス、惑トハ業ヲ發シ生ヲ潤ス煩惱ニシテ無明及ヒ愛、取、是レナリ、業トハ煩惱ニ發サレ當果ヲ感招スル有漏ノ善惡ノ諸業ニシテ行ト有ノ一半、行支ノ潤サレタル邊ト是レナリ、苦トハ業ニ感招セラレタル三界ノ果報ニシテ識、名色、六處、觸、受、生、老死ト有ノ一半(識等五支ノ潤サレタル邊)ト是レナリ、三ノ中業ノ種子ヲ頌文ニ諸業習氣ト名ク、惑ト苦トノ種子ヲ二取習氣ト名ク、惑ハ能取ニシテ苦ハ是レ所取ナリ、此三ノ習氣親因助緣トナリテ能ク生死ノ果報ヲ感生ス、即チ苦ノ習氣ハ果報ノ名言種子ニシテ親因緣ナリ、親因緣ナレトモ其力虛劣ナルカ故ニ他ノ資助ヲ藉ラサレハ自ラ生スルコト能ハス、ソノ之ヲ資助スルモノハ是レ惑業ノ習氣ナリ、即チ惑ヲ起シ業ヲ造リテ其種子ヲ熏習ス、此惑業ノ習氣増上緣トナリテ助ケテ苦果ヲ生ヒシム、是ノ如ク惑、業、苦ノ三習氣同時ニアリテ互ニ資ク資ケラレテ生死ノ果報ヲ感スル緣由トナル、故ニ由

諸業習氣二取習氣俱ト云ヘリ  
 前○異○熟○既○盡○復○生○餘○異○熟○トハ惑業苦ノ三習氣相助ケテ異熟ノ果報ヲ感生スト雖モ、  
 其業習氣ノ勢力ニ限リアリ、是レ名言種子ハ自果ヲ生スルモノナルカ故ニ種子ノ  
 アラン限リハ生果ノ能アレトモ、業種子ハ他ヲ助クル増上縁ナルカ故ニ一タヒ助  
 ケテ果ヲ感スレハ其勢力乃チ盡クルナリ、能感ノ業力既ニ限リアルカ故ニ隨ヒテ  
 所感ノ異熟果亦盡クルコトアリ、其能感ノ業力ハ盡クト雖モ更ニ他ノ業種熟スル  
 カ故ニソノ業力ニヨリ復タ別ニ餘ノ異熟果生ス、餘異熟トハ後ノ異熟果ヲ指ス、是  
 ノ如ク前盡クレハ後生シ生シテ展轉相續シ生死流轉窮極スルコトナシ  
 上來解説スルカ如ク有情ノ生死相續スルハ皆心内ノ種子ヲ以テ縁由トスルカ故  
 ニ唯識ニシテ心外ノ實境ナシト雖モ毫モ不可アルコトナシ

後遠教ノ難ヲ釋ス

此中先ツ境ナクンハ教説ノ三種自性成立セザルベシトノ難ヲ釋シ、後ニ識アラバ  
 教説ノ三種無性成立セザルベシトノ難ヲ通ズ

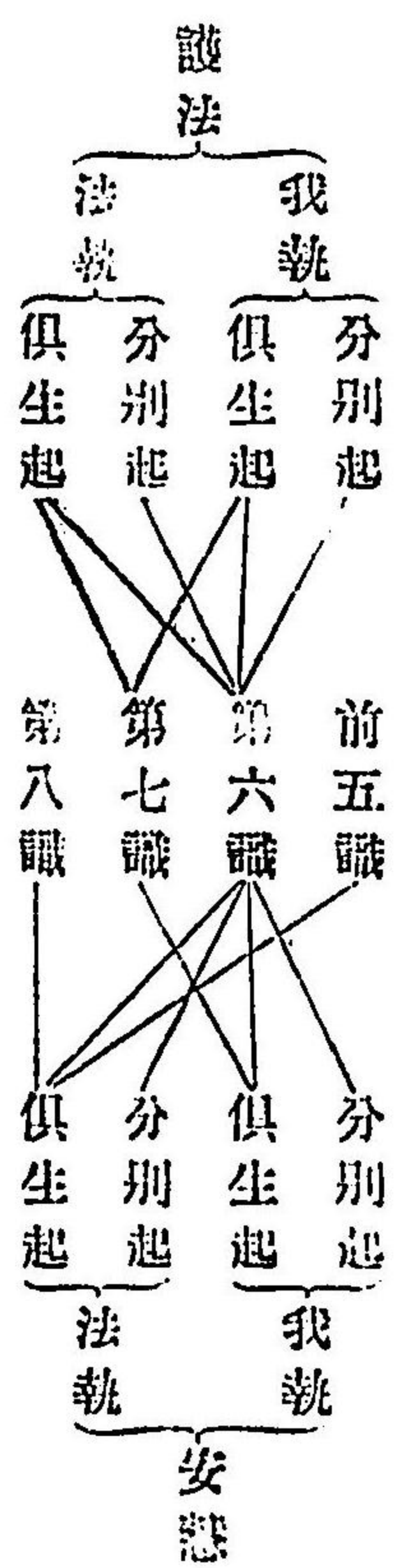
(三) 三種自性

解深密等ノ教ニ遍計所執、依他起、圓成實ノ三性アルコトヲ説ケリ、然ルニ若シ内識  
 ノミニシテ外境ナクンバ但依他ノ一性ノミニシテ三性ナルベシ、何ニヨリテ三  
 性アリト説クルカ、此難アルカ故ニ頌文之ヲ解説ス、云ク

由○彼○々○遍○計○遍○計○種○々○物○此○遍○計○所○執○自○性○無○所○有○トハ初ニ遍計所執性ヲ明ス、之ヲ解  
 常○遠○離○前○性○故○此○與○依○他○非○異○非○不○異○如○無○常○等○性○非○不○見○此○彼○ト、此三頌ノ中初ノ二頌  
 ハ正ク三性ヲ辨シ、次ノ三句ハ三性ノ不一異ヲ明シ、後ノ一句ハ依圓證見ノ前後ヲ  
 明ス

由○彼○々○遍○計○遍○計○種○々○物○此○遍○計○所○執○自○性○無○所○有○トハ初ニ遍計所執性ヲ明ス、之ヲ解  
 スルニ難陀ハ能遍計、所遍計ノ二門トシ、護法、安慧ハ能遍計、所遍計、遍計所執ノ三門  
 トシテ之ヲ釋ス、即チ難陀ハ第一句ハ能遍計ヲ明シ、餘ノ三句ハ所遍計ヲ明シタル  
 モノトス、是レ難陀ハ所遍計ノ種々物トハ即チ實我實法ニシテ所遍計ノ外別ニ遍  
 計所執ヲ立テザレバナリ、護法安慧ハ初句ハ能遍計ヲ明シ、第二句ハ所遍計ナル境  
 ヲ示シ、後ノ二句ハ正ク遍計所執ノ實我實法ノ本性都無ナルコトヲ申フルモノト  
 ス、是レ安慧護法ハ能遍計所遍計ノ外ニ遍計所執ヲ立ツルカ故ナリ

由彼々遍計トハ是レ能遍計ノ妄分別ヲ明ス、遍計トハ周遍計度ノ義ニシテ遍計一切ノ境ヲ緣シテ我ナリ法ナリト計較推度スルヲ云フ、此遍計心ノ品類衆多ニシテ一ニ非ザルカ故ニ彼々ト云フ、其ノ實ヲ云ヘハ周遍計度スルモノハタ、第六識ノミニシテ第七識ノ如キハ計度ノ義ノミアリテ周遍ノ義ナク、レトモ遍計ノ種類ナルカ故ニ亦從ヒテ遍計ト云フ、此能遍計妄執心ノ體性ニ就キ安慧ハ八識ニ逆ズトス是レ八識ノ三性(善惡無記)ニ通シテ皆執ナキモノナシトスルカ故ナリ、(因位ノ無漏心ニモ尙執アリト云フ)護法、難陀ハ六七二識ノ一分トス是レ攝論ニ唯意識是能遍計、有分別故ト云ヒテ計度分別スルモノ能遍計ナルヲ以テ、計度ナキ前五識及第八識等ノ如キハ無執ニシテ能遍計ニ非ストスルカ故ナリ、其安慧護法ノ立破ハ論八二丁ニ詳説スルカ如シ、今護法安慧ノ所立ニ就キ二執ノ俱生分別ヲ左ニ圖示スベシ



二執相應唯六七  
五八無執護法宗  
法五六八我六七  
諸識有執安慧宗

此能遍計心ハ遍計所執實我實法ノ起ル具トナルモノナルカ故ニ由ト云ヘリ、即チ此能遍計アルニ由リテ執スルナリ、遍計種々物トハ所遍計ノ境ヲ示ス、遍計ノ二字ハ能遍計ノ行相ナリ、即チ前句ノ遍計ハ心跡ニシテ此遍計ハ其心跡ノ上ノ行相ナリ、種々物トハ正ク遍計ヒラル、所ノ境ナリ、難陀ハ之ヲ實我實法ノ無執法ナリトス、故ニ此所遍計ヲ即チ遍計所執トス、護法安慧ハ之ヲ依他ノ有執法ナリトス、蘊處界等ノ依他法ヲ執シテ種々ノ我ナリ法ナリ等ト執スルナリ、圓成真如ノ如キモ傳ヘテ亦所遍計ノ法ト云フヘケレトモ親シキ所遍計ノモノニ非ズ、此遍計所執自性無所有トハ難陀ノ前句ニ計スル所ノ實我法ノ種々物ヲ指シタルモノトシ、護法安慧ハ前句ノ種々物ナル依他法ヲ我ナリ法ナリ等ト計度スルトキ其前ニ顯ハル、モノヲ指ス、是正シク遍計所執性ナルモノナリ、中ニ於テ安慧ハ能取所取ニ似テ現スル見相二分ヲモ攝シテ遍計所執トシ、護法ハ只見相二分ノ上ニ我ナリ法ナリト執スルトキ妄情ニ當リテ顯ハル、實我實法ノ相是ナリトス、之ヲ當情現トモ云ヒ中間存境トモ名ク、喩ヘハ木杭ヲ見テ人ナリト誤リ謂フカ如キ、本

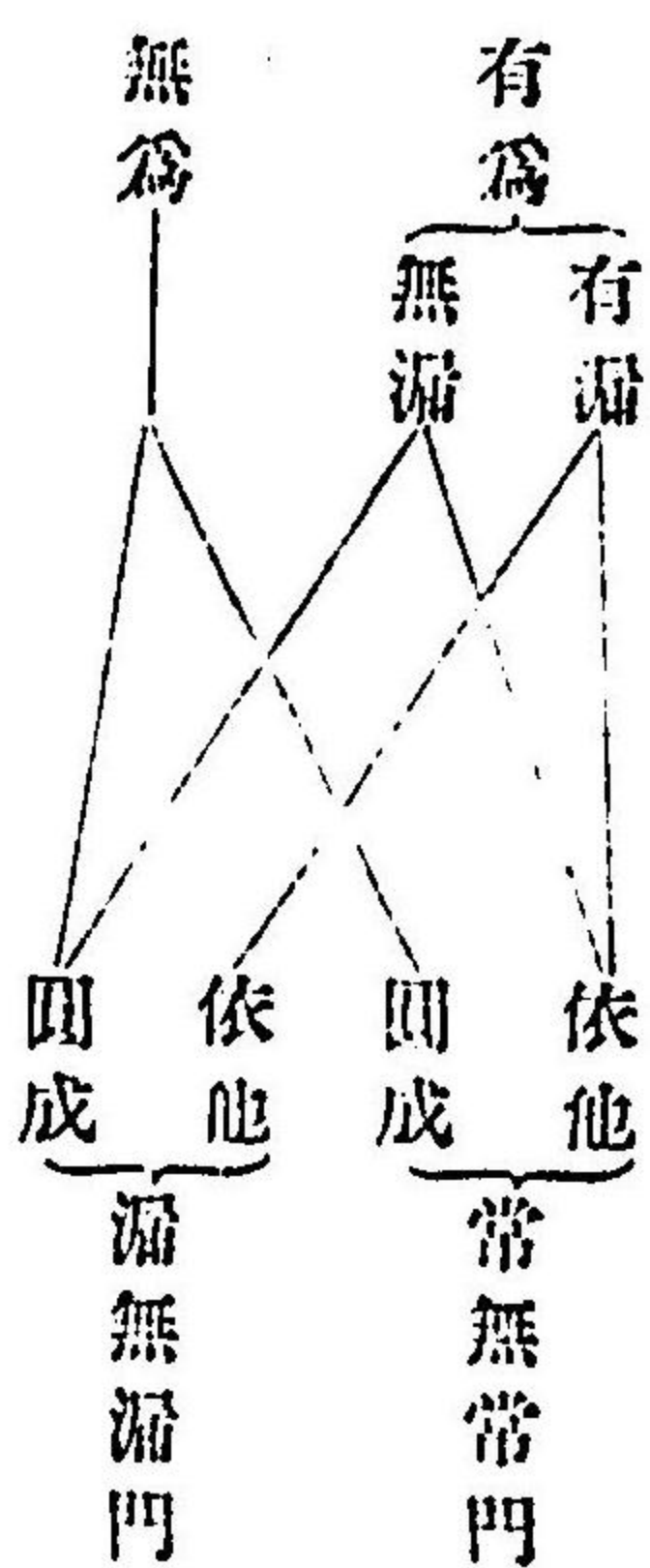
杭ハ所遍計ニ比スヘク、人ナリト謂フ分別心ハ能遍計ニ例スヘク、其時ニ當リテ眼前ニ人ヲシキ面影ノ浮フハ即チ遍計所執ニ喩フベシ、此遍計所執ハ昧性都無ナルモノナルガ故ニ自性無所有ト云ヘリ

依他起自性分別緣所生トハ次ニ依他起性ヲ明ス、色心ノ諸法ハ他ノ衆緣ニ依托シテ生起ス故ニ依他起ト名ク、衆緣トハ即チ四緣ナリ、心法ハ通シテ四緣ニ依リテ生シ、色法ハ因緣ト増上緣トノ二緣ニ托シテ起ル、サレハ緣ヨリ生スル所ノ八識心王心所及見分相分皆コレノ依他起性ナリ、是レ護法ノ意ニ約ス、不相應法ノ如キモ別體ナシト雖モ用アリテ緣性ノ色心ノ上ニ立ツレハ亦依他起ニ攝ス、分別トハ虛妄分別ニシテ有漏雜染ノ法ニ名ク、無漏清淨ノ有爲法ノ如キ亦依他起性ナリト雖モ彼ハ亦後ノ圓成實性ニ攝スル義アルカ故ニ今ハ只染分ノ依他ノミヲ説ク、或ハ分別トハ緣慮ノ異名ニシテ總シテ染淨漏無漏ノ心々所ニ名ク、色法等ノ如キ心々所ニ非サレトモ心々所ヲ離レサルカ故ニ亦分別ノ中ニ攝ム、サレバ漏無漏ノ色心皆分別ニシテ寛ク染淨スヘテノ依他法ヲ説クリ、又此分別ノ二字若シ上ニ屬スレハ所生ノ法ナリ、依他起自性分別緣所生若シ下ニ屬スレハ能生ノ緣ナリ、依他起自

唯 識 論 講 義

唯 識 論 講 義

性、分別緣所生緣所生トハ衆緣所生起ノ略ニシテ依他起ヲ釋ス  
圓成實於彼常遠離前性トハ後ニ圓成實性ヲ明ス、圓成實トハ即チ眞如ナリ、眞如ハ圓滿成就眞實ノ義ヲ具スルカ故ニ圓成實ト名ク、圓滿ハ其體ノ周遍セルコトヲ顯シテ諸法ノ自相ニ簡フ、自相ハ其法體ニ局レトモ眞如ハ一切ノ有爲法ニ通ス、成就ハイツモカハラズ成就シテオルト云フ意ニテ其體常住ナルコトヲ顯シテ共相即チ無常苦等ヲ簡フ、共相ハ常住ニ非サレモ眞如ハ常住無變ナリ、眞實ハ諸法ノ眞實昧性ノ意ニテ其體虛隱ニ非サルコトヲ顯ハシテ小乘所談ノ虛空等外道所計ノ我等ヲ簡フ、彼ハ虛隱ニシテ法ノ實性ニ非ズ眞如ハ虛隱ニ非ズ眞實ノ本體ナリ、如是眞如ハ圓滿成就眞實ノ三義ヲ具スルカ故ニ圓成實性ト名ク、是ハ常無常門ノ圓成ニ就キテノ解釋ナリ、凡ソ圓成實ニ常無常門ト漏無漏門トアリ、即チ常住ト無常トヲ以テ依他圓成ヲ分ツテ常無常門ト云ヒ、有漏ト無漏トヲ以テ依圓ヲ分ツテ漏無漏門ト云フ、左圖ノ如シ



二門アリト雖モ今謂フ所ノ圓成ハ常無常門ノ圓成ニシテ即チ眞如ナリ於彼常遠  
 離前性トハ於ハ依ノ義彼ハ次前ノ依他ヲ指シ常ハ恒ノ義ニシテ一切ノ時ナリ遠  
 離ハ無ノ義ニシテ前トハ最初ノ遍計所執ヲ云フ是レ此圓成實性ハ彼依他ノ中ニ  
 依リテ一切ノ時ニ所執ヲ離シタルモノナルカ故ナリ而シテ又於彼ノ際ハ圓成ト  
 依他ト不即不離ナルコトヲ顯ハス即チ彼ニ依ルト云フカ故ニ隔離セルモノニ非  
 ズ此彼ヲ分ツカ故ニ即一ノモノニモ非ズ是ハ辨中邊論ノ頌ニ此中唯有空於彼亦  
 有此依他ヲ此ト云ヒ圓成ヲ彼ト云フト云フニ同シ常遠離前ノ語ハ依他ヲ空無スル  
 ニ非ス恒ニ所執ヲ離レタルモノ圓成實トナルコトヲ示ス更ニ性ノ言ヲ置クコト  
 ハ所執ヲ空シタルトコロ即チ圓成實ニ非ズ二空ニ由リテ顯ハサレタルモノ是レ  
 圓成實ナルコトヲ顯ハス即チ觀智ヲ以テ遍計ノ妄執ヲ遮遣シタル時顯ハレテ證

見ヒラル、所ノ眞理之ヲ圓成實ト云フ亦之ヲ二空眞如ト云ヒ空理ト名ク二空眞  
 如ト云フト雖モ眞如ノ躰ソノモノモ空ナルニ非ズ能顯ニ從ヘテ所顯ノ理ヲ空ト  
 名クルノミ觀智ヲ以テ妄執ヲ除キタルトキ眞理ノ顯ル、コト喩ヘハ清風ノ雲ヲ  
 掃ヒテ月色方ニ明朗ナルコトヲ得ルカ如シ  
 已上明ス所ノ三性之ヲ約言スレハ因緣ニ依リテ顯象シタル諸法之ヲ依他起性ト  
 云ヒ此諸法ノ實躰之ヲ圓成實性ト云ヒ此諸法ヲ誤リ認メテ實我實法トナシタル  
 モノ之ヲ遍計所執性ト云フサレハ依圓ハ悟心ヨリ觀察シタル正當ノモノニシテ  
 遍計ハ迷心ニテ觀察シタル誤謬ノモノナリト知ルベシ  
 故此與依他非異非不異如無常等性トハ三性ノ不一不異ヲ明ス故トハ前ノ圓成實  
 於彼ノ句ヲ指シ此トハ圓成實性ヲ指スコレ圓成ト依他トハ實體ト顯象トナレハ  
 象ハ躰ノ象ニシテ躰ハ象ノ躰ナルカ故ニ相依リテ別異ノモノニ非ス故ニ非異ト  
 云フ別異ノモノニ非ズト雖モ躰象ノ別アリテ有爲無爲同シカラザルカ故ニ亦同  
 一ニモ非ス故ニ非不異ト云フソノ不一不異ナルコト前ノ事理不即離ノ下(一八頁)ニ  
 説ケルカ如シ如無常等性トハ不一不異ノ喩ヲ示ス依圓ノ不一不異ナルコトハ喩ヘ

唯 識 論 講 義

ハ色等ノ法ト無常無我等ノ共相ト不一不異ナルカ如シ、無常等ハ色等ノ無常ナルカ故ニ別異ノモノニ非ズ、別異ナラザレトモ色等ハ自相ニシテ無常等ハ共相ナルカ故ニ全ク同一ニモ非ズ故ニ不一不異ナリ、之ヲ以テ依圓ノ不一不異ヲ喻顯ス、故ニ如無常等性ト云ヘリ、此頌文ハ正ク依他ト圓成トノ不一不異ヲ明セトモ依圓ノ不一不異ノミナラズ三性相對望スルモ亦不一不異ナリ、蓋シ三性ハ全ク隔離セル三種ノ物體アルニ非ズ諸法一々ノ上ニ皆三性アリト云フハシ、今且ク一法ヲ指示シテ之ヲ談センカ一ノ青色ノ如キ此ハ是レ其種子ナル因縁ト他ノ増上縁トニ依リテ生起シタルモノナレバ如幻假有ノ依他起性ナリ、然ルニ之ニ誤謬ノ觀察ヲ下シテ固定實在ノ青色ナリト執著スレハ其妄執ノ情ニ當リテ固定實在ノ青色ラシキ相ヲ影現ス是レ遍計所執ナリ、而シテ又此青色ナル顯象其定實等ノ妄執ノ相ヲハ常ニ遠離セル所依ノ實體アリ、其實體即チ圓成實性ナリ、既ニ一法ノ上ノ三性ニシテ別體ナキガ故ニ定異ニ非スト雖モ、遍計ハ妄執ノ點ヲ云ヒ依他ハ因縁所生起ノ顯象ノ點ニシテ圓成ハ眞實本體ニ名ケタルカ故ニ亦定一ニモ非ズ、故ニ論(八三)ニ應

既俱非(異)ニモ一ニモ非ズ(無別體故)故ニ異ニ非ズ(妄執(遍計)緣起(依他)眞義(圓成)別故)

(故ニ一ニ非ズ)ト云ヘリ

非不見此彼トハ依圓證見ノ前後ヲ明ス、此句巧ニ文ヲ作り一ノ見字ヲ下シテ二處ニ通セシム、非不見此而見彼ト云フ意ナリ、見トハ證見ノ義ニシテ無漏ノ覺悟智ヲ以テ親シク證悟スルヲ云フ、依他圓成ノ證見ノ前後ハ先ツ圓成ヲ證シテ而シテ後依他ノ如幻ヲ了スルナリ、若シ圓成ノ眞理ヲ證スルニ非スンバ如實ニ依他ノ如幻ヲ了達スルコト能ハズ、何者圓成ヲ證スルハ根本智、依他ヲ了スルハ後得智ニシテ、ソノ後得智ハ名字ノ顯ハスカ如ク根本智ノ後ニ得ル智ナレバナリ、凡夫位ニアリテモ尙ホ依他ヲ緣スト雖モ第七識ノ我法執恆行シテ依他ノ如幻ヲ覆障スルカ故ニ如實ニ之ヲ了スルコト能ハズ、二空ノ觀智生シテ能障ノ妄執ヲ除クトキ依他如幻ノ理方メテ現ス、其妄執ヲ除ク觀智トハ圓成ノ眞理ヲ證スル根本分別智ナリ、故ニ無分別智先ツ圓成ヲ證シテ後ニ後得智方ニ能ク依他ノ如幻ニ了達スルナリ、故ニ厚嚴經ニ非不見眞如而能了諸行皆如幻事等、雖有而非眞ト云ヘリ

上來三頌ノ意之ヲ要スルニ遍依圓ノ三性ハ別物體ノモノニ非ズ不離ナルモノナリ、而シテ依他起ハ識相圓成實ハ識性ニシテ遍計所執ハ其上ニ起ス所ノ増減ノ妄

唯 識 論 講 義

執ノ相ナリ、故ニ教中ニ三性アリト説クト雖モ皆識ヲ離レザレバ唯識ニ違スルノ失アルコトナシト云フニアリ

(ろ)三種無性

三種無性トハ相無自性、生無自性、勝義無自性ニシテ、換言スレハ諸法皆空ナリ、無自性トハ空ノ義ナリ、前段ニ三性モ識ヲ離レサルガ故ニ唯識ニ違セスシテ之アリト云ヘリ、若シ唯識ノ三種自性アラハ何故ニ般若等ノ教中ニ諸法皆空ト説ケルカ、既ニ諸法皆空即チ三種無自性ト説クヲ得ハ云何ソ識アリト云フコトヲ得、是レ唯識違教ノ二難ノ第二難ナリ、頌文之ヲ通釋ス、云ク

即依此三性立彼三無性故佛密意説一切法無性初即相無性次無自性後由遠離前所執我法性ト、此中初頌ノ四句ハ總シテ諸法無自性ト説ケル所以ヲ釋シ、後頌ノ四句ハ別シテ之ヲ説明ス

即依此三性立彼三無性トハ彼ノ般若經等ニ諸法皆空ト説ケルハ是レ三種無自性ナリ、三無自性ハ前段明ス所ノ三性ニ依止シテ之ヲ安立ス、即チ遍計、依他、圓成ニ依リテ次第ノ如ク相、生、勝義ノ三無自性ヲ立ツ、サレハ三無自性ハ其體三自性ヲ離レ

テ之アルニ非ス、表門ニ之ヲ三性トシ、遮門ニ之ヲ三無性トス、

初即相無性トハ相無自性ヲ釋ス、相無自性ハ是レ初ノ遍計所執性ニ依リテ安立ス、相トハ體相ナリ、遍計所執ハタ、妄情ノ前ニノミアリテ其實體相都テ空無ナルモノナルカ故ニ相無自性ト云フ、喩ヘハ空華ノタ、眼病者ノ前ニノミアリテ其體都テ無ナルガ如シ

次無自性トハ生無自性ヲ釋ス、生無自性ハ次ノ依他起性ニ依リテ安立ス、生トハ緣生ニシテ衆緣所生ノ畧語ナリ、或ハ自然生ノ生ナリト云フ説アレトモ、緣生ノ生ナリトスルヲ可トス、自然生トハ衆緣ヲ待タスシテ本來自然固定確實ナルヲ云フ此衆緣所生ノ依他法ハ自然生ノモノニ非スシテ虛假ナレハ定實自然ノ性アルコト無シ故ニ生無自性ト云フ、喩ヘハ幻事ノ虛假ニシテ固定確實ニ非サルカ如シ、後由遠離前所執我法性トハ勝義無自性ヲ釋ス、勝義無自性ハ後ノ圓成實性ニ依リテ安立ス、勝義トハ殊勝ノ境義トハ義理ニ名クルコトアリ、對境ニ名クルコトアリト云フ義ニシテ、圓成實ハ殊勝ナル根本無分別智ノ對境ナレハ勝義ト云フ、此勝義即チ圓成實ハ前ノ遍計所執ノ我法ヲ遠離セルニ由リテ顯サル、モノニシテ、衆



相ヲ離レテ我法執ナキカ故ニ無自性ト云フ、喻ヘハ虚空ノ衆色ノ無キニ由リテ顯サル、カ如シ

已上三種ノ無自性ノ中初ノ相無自性即チ遍計所執ハ其體空無ナルコト論ナケレ  
トモ、後二ノ生ト勝義トノ無自性ニ至リテハ依圓ノ法體ハ空無ニ非サルカ故ニ、其  
無自性トハ何ニ名クルカト云フニ、古來執空體空ノ二説アリ、今之ヲ容陳シテ其可  
否ヲ批評スヘシ

(一) 執空ノ義 後二ノ無自性モ相無自性ニ同ク遍計所執ニ名ク、即チ依他ヲ自然確  
實ノ法ナリトスルソノ自然確實ノ法ノ空無ナルヲ生無自性ト云ヒ、圓成ハ所執ノ  
我法ノ空無ナルニ由リテ顯ル、ガ故ニソノ所執ヲキテ名ケテ勝義無自性トス、其  
故ハ依圓ノ法體ハ非無ナレハ無自性ト名クヘカラス、若シ法體ヲモ空ナリトセハ  
偏空ニ墮シテ中道了義ノ説ニアラサレハナリ、故ニ論(九右)ニハ無如妄執自然性  
故ト説キ、疏(九末左)ニハ非無後二性但無計所執ト云ヒ、義林章(一本右十三)ニハ依依  
他起上無遍計所執自然生故説生無自性性乃至説三種無性皆依遍計所執ト云ヘリ  
(二) 體空ノ義 後二ノ無自性ハ依他圓成ノ法體ニ名ク、依圓ハモト中道ノ有法ニシ

唯 識 論 講 義

テ偏有ニ非サルカ故ニ、有ナルト俱ニ亦空ノ義アリ、其空ノ義即チ依他ノ法體ニハ  
如幻虛假ナル空ト云ハルヘキ義アリ、圓成ノ法體ニハ無相空寂ナル空ト云ハルヘ  
キ顯アリ、之ヲ名ケテ無自性ト云フ、相無自性既ニ所依ノ遍計ニ就キテ無自性ノ名  
ヲ立ツ、後二ノ無自性何ソ各其所依ノ性ニ名ケサランヤ、故ニ頌文ニハ即依此三性  
立彼三無性ト説ク、若シ所執ニ名ケハ依三性ニ非ス、論(九右)ニハ假説無性非性全無  
ト云ヘリ、若シ所執ニ名ケハ假説ニ非ス、又性全無ナリ何ソ非ト云フヘクンヤ、又深  
密瑜伽等ノ經論ニ三無自性各別喻ヲ舉ケタリ、若シ所執ニ名ケハ一喻ニテ足レリ  
何ソ三喻ヲ要セシヤ、

執空體空二説ノ義意是ノ如シ、而シテ論疏ノ意ニ就キテ其可否ヲ批評スルニ至リ  
テハ從來多ク體空ノ義ヲ評取セリ、然レモ偏ニ體空ノ義ノミヲ取ラスシテ二義並  
ヒ存シテ可ナリ、若シタ、體空ノ義ノミヲ取ラハ執空義ノ引キ證スル所ノ諸文正  
當ニハ解釋シ難シ、論(九右)ニ生無性ヲ釋シテ此、如幻事託衆緣生、無如妄執自然性、故  
ト云フ、前二句ハ生字ヲ釋シ、后二句ハ無性ヲ解セルモノニシテ、執空ノ義ニ合ス、對  
法抄(十右十六)ニハ勝義即體、是無性、又諸法無性、爲自性、故言勝義無性、即遍計所執ト

唯 識 論 講 義

云ヒ、又圓成、自、勝、即、無、或、無、遍、計、諸、法、有、此、遍、計、無、性、名、勝、義、無、性、ト云ヘリ、二義ヲ並存  
 スヘキコト文ニ在リテ明ナリ、况ヤ二義ト云フト雖モ其實兩立スヘカラサルニ義  
 ニハ非スシテ終ニハ一意ニ皈スルヲヤ、何者、依他ノ如幻虛假ナルハ所執ノ自然確  
 實ノ性ナキカ故ニ、圓成ノ無相空寂ナルハ遍計ヲ遠離シテ定實ノ衆相ナキカ故ナ  
 レハナリ、蓋シ執空ノ義ハ三性對望シテ空有ヲ論スルカ故ニ、依圓ノ上ノ空ヲハ所  
 執無性トシ、依圓ノ有ヲハ依圓法體ノ自性トス、是レ三性對望ノ中道ト義趣ヲ同ク  
 ス、勝空ノ義ハ依圓各性空有ヲ論スルカ故ニ、依圓ノ有モ偏有ニ非サレハ亦空ノ義  
 ナ有ス、此空ハ依圓ノ勝上ノ義ナルヲ以テ勝空トス、是レ三性各具ノ中道ト其趣  
 同シ、尅實スレハ勝上ノ空ノ義ト云フモ所執ヲ空スルノミ、所執空ナルカ故ニ勝上  
 ニ空ノ義アルナリ、サレハ執空勝空其義且ク異ナレトモ終ニ一意ニ皈シテ乖角ノ  
 二義ニハ非ス、故ニ二義並存シテ可ナリ、  
 已上陳フルカ如ク三種無自性ハ三性ニ依リテ立テタルモノナルカ故ニ其勝三性  
 ナ離レテ別ニ之アルニ非ス、般若等ノ教ニ諸法皆空ト説ケルハ即チ此三性ニ依リ  
 テ立テタル三種無自性ノ義ナリ故ニ故佛密意説一切法無性ト云ヘリ、故トハ上ノ

唯 識 論 講 義

依此三性立彼(彼トハ般若經等ヲサス)三無性ヲ指ス、然レトモ般若會上ニ於テ明カ  
 ニ三種無自性ト説キシニハ非ス、般若會上ハ總説隱密ノ説ナリ、總説隱密ノ説トハ  
 遍計ノ勝相都無及ヒ依圓ノ如幻空寂ノ點ニ就キテ空ト云フノミ、依圓ノ法體ハ空  
 無ニ非ス等ト分明ニ其旨ヲ説カス、之ヲ覆ヒテ卻然諸法空ナリト説クヲ云フ、頌ノ  
 密意説ト云フハ是レナリ、是レ般若會上ハ深ク諸法實有ノ執ヲ起シ、二乘等ニ對  
 セルカ故ニ、之ヲ遮シテ諸法皆自性アルコトナシト説ケルナリ、若シ顯了ニ之ヲ説  
 カハ遍計所執ハ勝相都テ空無ナレトモ、依他圓成ハ其勝全無ニ非ス、全無ニ非サレ  
 トモ依他ニハ如幻ノ空ノ義アリ、圓成ニハ空寂ノ空ノ義アリ、此點ニ依リテ總シテ  
 空即チ無自性ト説ケリ、是レ佛ノ無自性ト説ケル密意ノ在ル所ナリ、既ニ三種無性  
 ハ三性ニ依リテ立ツルカ故ニ識アリト立ツト雖モ三無性教ニ違スルノ失アルコ  
 トナシトナリ

第二科 唯識ノ性ヲ明ス

コレマテ講説シ來リシ二十四頌ハ依他起ノ諸法ニ就キテ心外實境ノ執ヲ除カシ  
 メンカ爲メニ唯識ノ相狀ヲ明シ了レリ、相狀ハ生滅變易シテ差別アリ、生滅差別ア  
 ル相狀ハ必ス常住不生滅ニシテ無相平等一味ナル所依ノ實性本體ナルヘカラ  
 ス、今第二十五ノ此諸法勝義亦即是眞如、常如其性故、即唯識實性ノ一頌ハ常住一味  
 ノ眞如是レソノ唯識ノ實性ナルコトヲ明ス、即チ上ハ世俗諦ニシテ此ハ勝義諦ナリ  
 抑世俗勝義ノ二諦ハ佛教ノ大本ニシテ諸佛之ニ依リテ説法シ衆生之ニ依リテ證  
 悟ス、故ニ中論ニハ諸佛依二諦爲衆生説法、一以世俗諦二第一義諦、若人不能知分別  
 於二諦、則於深佛法不知眞實義ト云ヘリ、世俗トハ有相顯現シテ空理ヲ隱覆スルモ  
 ノニ名ク勝義トハ殊特勝妙ナル智慧ノ對境トナルモノニ名ク、ソノ世俗勝義ノ有  
 無事理ノ法ハ如實ニシテ虛謬ナラサルカ故ニ皆名クテ諦ト云フ、唯識宗ニ於テ具  
 ニ二諦ヲ明スニ世俗勝義ニ各四重ヲ立ツ、世間道理證得勝義是ナリ  
 先ツ世俗ノ四重ノ第一世間世俗諦トハ瓶衣我有情等ナリ、瓶衣我有情等ハタ、凡  
 夫ノ妄情ニ有リト謂フノミナレハ情ト名トニ依リテ假リニ安立シタル心外ノ境  
 ニシテ實體アルコトナシ、故ニ亦有名無實諦ト名ク、第二道理世俗諦トハ五蘊十二  
 處、十八界等ノ法ナリ、蘊處界ノ法ハソレノ事相ニ隨ヒソレノ義理ニ依リ  
 テ立テ、其事相知リ易シ、故ニ亦隨事差別諦ト名ク、是レ心所變ノ事相ナリ、第三證  
 得世俗諦トハ苦集滅道ノ四諦等ノ法ナリ、四諦等ノ法ハ行人ヲシテ惡ヲ除キ善ヲ  
 修シテ聖果ヲ證得セシメンカ爲メニ、染淨因果ノ差別ヲ施設安立シタルモノナリ、  
 故ニ亦方便安立諦ト名ク、是レ因果差別ヲ顯ス淺理ナリ、第四勝義世俗諦トハ生法  
 二空ノ眞如ナリ、二空眞如ハ前三世俗ノ諸法ニ超エ聖智ノ所知ニシテ、二空ノ證門  
 ニ依リテ施設シタルモノナリ、二空證ノ施設ナレトモ四諦差別ノ如キ安立ニ非サ  
 レハ亦假名非安立諦ト名ク、是レ眞如ノ深理ヲ顯ス、門ナリ、已上ノ二重其理淺深異  
 ナレトモ俱ニ心所變ノ理ナリ  
 後ニ勝義ノ四重ノ第一世間勝義諦トハ其體ヲ云ヘハ第二俗ニ同ク蘊處界等ノ法  
 ナリ、是レ事相顯現ニシテ破壞スヘク、而モ後得智ノ所知ニシテ初俗ニ勝ル、カ故  
 ニ世間勝義諦ト云フ、之レヲ亦體用顯現諦ト名ク、是レ初俗ニ異ニシテ體モアリ用モ  
 アリテ事相顯現ノ法ナレハナリ、第二道理勝義諦トハ第三俗ニ同ク四諦等ノ法ナ

ニシテ實體アルコトナシ、故ニ亦有名無實諦ト名ク、第二道理世俗諦トハ五蘊十二  
 處、十八界等ノ法ナリ、蘊處界ノ法ハソレノ事相ニ隨ヒソレノ義理ニ依リ  
 テ立テ、其事相知リ易シ、故ニ亦隨事差別諦ト名ク、是レ心所變ノ事相ナリ、第三證  
 得世俗諦トハ苦集滅道ノ四諦等ノ法ナリ、四諦等ノ法ハ行人ヲシテ惡ヲ除キ善ヲ  
 修シテ聖果ヲ證得セシメンカ爲メニ、染淨因果ノ差別ヲ施設安立シタルモノナリ、  
 故ニ亦方便安立諦ト名ク、是レ因果差別ヲ顯ス淺理ナリ、第四勝義世俗諦トハ生法  
 二空ノ眞如ナリ、二空眞如ハ前三世俗ノ諸法ニ超エ聖智ノ所知ニシテ、二空ノ證門  
 ニ依リテ施設シタルモノナリ、二空證ノ施設ナレトモ四諦差別ノ如キ安立ニ非サ  
 レハ亦假名非安立諦ト名ク、是レ眞如ノ深理ヲ顯ス、門ナリ、已上ノ二重其理淺深異  
 ナレトモ俱ニ心所變ノ理ナリ  
 後ニ勝義ノ四重ノ第一世間勝義諦トハ其體ヲ云ヘハ第二俗ニ同ク蘊處界等ノ法  
 ナリ、是レ事相顯現ニシテ破壞スヘク、而モ後得智ノ所知ニシテ初俗ニ勝ル、カ故  
 ニ世間勝義諦ト云フ、之レヲ亦體用顯現諦ト名ク、是レ初俗ニ異ニシテ體モアリ用モ  
 アリテ事相顯現ノ法ナレハナリ、第二道理勝義諦トハ第三俗ニ同ク四諦等ノ法ナ

唯 識 論 講 義

リ、是レ知斷修證染淨因果ノ道理ニ依リテ立テ、殊勝ナル無漏智ノ境トナリ前二俗ニ勝ル、カ故ニ道理勝義諦ト云フ、之ヲ亦因果差別諦ト名ク、是レ染淨因果ノ差別ニ依リテ施設シタルモノナレハナリ、第三證得勝義諦トハ、第四俗ニ同ク二空眞如ナリ、是レ二空ノ詮門ニ依リテ理ヲ證得スルモノニシテ、凡智ノ知ル所ニ非ス聖智ノ境ニシテ前三俗ニ勝ル、カ故ニ證得勝義諦ト云フ、之ヲ亦依門顯實諦ト名ク、是レ二空ノ詮門ニ依リテ實理ヲ顯スモノナレハナリ、第四勝義勝義諦トハ一實眞如ナリ、是レ其勝義絶妙ニシテ言思慮ヲ離レ、唯眞本無分別智ノ所證ニシテ前四俗ニ勝ル、カ故ニ勝義勝義諦ト云フ、之ヲ亦廢詮談旨能ト名ク、是レ言詮ノ及ハサル所ニシテ聖智ノ直ニ冥會契證スルモノナレハナリ

是ノ如ク世俗勝義各四重ヲ立ツルコトハ、凡ソ諸法ヲ明ムルニ實勝アルアリ實勝ナキアリ、有勝ノ中ニ於テ事法アリ理法アリ、理ノ中ニ復タ因果差別ノ淺理アリ眞如ノ深理アリ、深理ノ中ニ二空ノ能詮ヲ假リテ之ヲ顯スアリ假詮ヲ離レテ直ニ契證スルアリ、此別アルカ故ニ各四重ヲ立テ、之ヲ判明ス、即チ左圖ノ如シ、

無勝……世間世俗  
 事……世間勝義



而シテ又四重相對スルコトハ

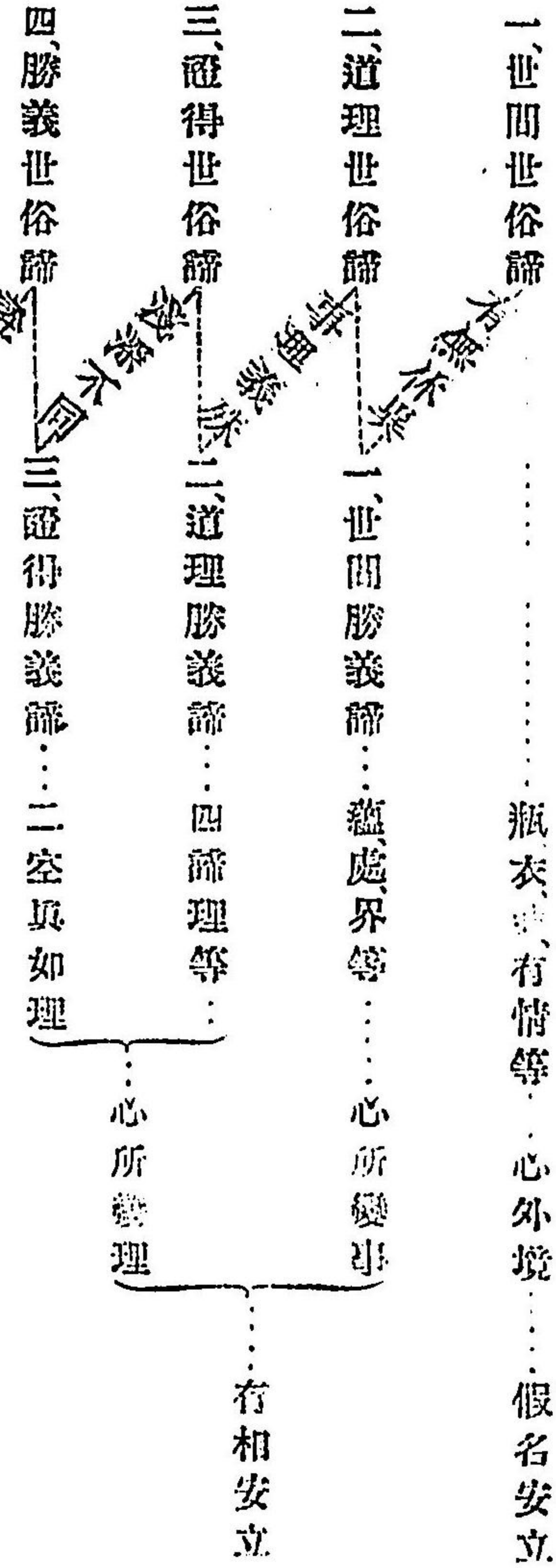
- 有勝異ナルカ故ニ第一對ヲ成ス
  - 無勝……世間世俗
  - 有勝……世間勝義
- 事理義殊ナルカ故ニ第二對ヲ成ス
  - 事法……道理世俗
  - 理法……道理勝義
- 淺深不同ナルカ故ニ第三對ヲ成ス
  - 淺理……證得世俗
  - 深理……證得勝義
- 詮旨各別ナルカ故ニ第四對ヲ成ス
  - 依詮……勝義世俗
  - 廢詮……勝義勝義

已上明ス所ノ四重ノ二諦ヲ結束シテ圖表スレハ左ノ如シ

唯 識 論 講 義

世俗四重

勝義四重



唯識論講義

此諸法勝義トハ此トハ次上ノ勝義無性タル圓成實性ヲ指ス、此圓成實性ハ諸法ノ勝義ナリ、諸法トハ一切諸法ナリ、勝義トハ前ニ解スルカ如シ、勝義諦ニ四重アレトモ今云フ所ノ勝義ハ前三勝義ニハ非ズシテ第四ノ勝義勝義諦ナリ、ソノ前三勝義ニ濫センコトヲ恐ル、カ故ニ之ヲ簡ヒテ次ノ句ニ亦即是眞如ト云ヘリ、眞トハ眞實ノ義ニシテ虛妄ニ非ザルコトヲ顯ス、是レ有漏ノ諸法ヲ簡フ、有漏ハ虛妄分別ニ

唯識論講義

シテ非我法ヲ我法ト執スル迷謬可斷ノ法ナレバナリ、又ハ遍計所執ヲ簡フ、遍計ハ是レ妄執ナレバナリ、如トハ如常ノ義ニシテ變易ナキコトヲ表ス、是レ有爲ノ無漏法ヲ簡フ、有爲無漏ハ眞實ナレトモ生滅變易アリテ常住ニ非サレバナリ、又ハ依他法ヲ簡フ、是レ依他ハ生滅アレバナリ、今此圓成實ハ眞實ニシテ虛妄ナラス常住ニシテ生滅變易ナキカ故ニ眞如ト云フ、既ニ眞實常住ナルカ故ニ前三勝義諦ニハ非ズ、常如其性故トハ前句ヲ釋成ス、是レ此圓成實ハ眞實不虛妄ニシテ一切ノ位ニ於テ湛然常如ニシテ生滅變動ナシ、之ヲ其體性トスルカ故ニ眞如ト云フナリ、即唯識實性トハ諸法ノ勝義タル圓成實ハ是レ唯識ノ性タルコトヲ結ス、凡ソ唯識性ヲ解スルニ二對アリ、一ニハ眞妄相對、二ニハ眞俗相對ナリ、眞妄相對トハ一ニハ虛妄唯識性、即チ遍計所執性ナリ、二ニハ眞實唯識性、即チ圓成實性ナリ、今ハ第二ノ眞實唯識性ニシテ第一ノ虛妄唯識性ニ非ズ、コノ一對ハ遍計圓成ノ二性ハ依他起ニ依リテ離レザルコトヲ示シテ、今ハ依他ニ依リテ起ル唯識性ヲ簡ヒテ、依他ニ依リテ其實體トナル圓成ナルコトヲ顯サンカ爲メニ實ノ言ヲ加ヘテ唯識實性ト云ヘリ、眞俗相對トハ一ニハ世俗唯識性、即チ依他起性ナリ、二ニハ勝義唯識性、即チ圓成實性

ナリ、今ハ第二ノ勝義唯識性ニシテ第一ノ世俗唯識性ニ非ズ、コノ一對ハ遍計ノ無  
昧法ヲ除キ有昧法ニ就キテ依圓相對シテ、世俗ノ依他ヲ簡ヒ勝義ノ圓成ナルコト  
ヲ顯ハサシカ爲ニ實ノ言ヲ加ヘテ唯識實性ト云ヘリ、要スルニ二對ノ唯識性ヲ說  
示シテ、今ハ虛妄及ヒ世俗ノ唯識性ニ非ズシテ、眞實即チ勝義ノ唯識性ニシテ、是レ  
一切諸法ノ所依ノ實性本體ナリト云フニアリ、

### 第三科 唯識ノ位ヲ明ス

上來二十五頌ヲ以テ廣ク唯識ノ相性依他圓成ヲ明シ了レリ、其之ヲ明スコトハ意ハ  
有情ヲシテ依他ノ如幻ヲ了シ圓成ノ眞理ヲ證シ、以テ三身万徳ノ佛果ヲ得圓滿ニ  
唯識ニ悟入セシムルニアリ、然ルニ究竟ノ佛果ハ直ニ之ヲ證シ得ヘキモノニ非ズ、  
必ス三大長時劫ヲ經テ無量ノ善行ヲ修シ生我法我ノ迷執ヲ破シ煩惱所知ノ妄染  
ヲ斷シ盡サ、ルヘカラス、其破執ノ淺深、斷惑ノ多少等ニ依リテ、階級ヲ分チテ五位  
トナス、資糧位、加行位、通達位、修習位、究竟位是レナリ、以下ノ五頌コノ五位ヲ明ス

#### (一) 資糧位

資糧位トハ此位ハ初メテ深ク佛果菩提ヲ求ムル心ヲ發シ、此ニ趣カンカ爲メニ種  
々ノ勝レタル資糧、即チ己カ菩提ノ法身ヲ資益スル福智ノ行ヲ修集スルカ故ニ資  
糧位ト名ク、此位ヲ亦順解脱分ト名ク、是レ有情ノ爲メニ解脱涅槃ヲ勤求スルヲ以  
テ解脱ニ順スル因ナルカ故ナリ、乃至未起識求住唯識性於二取隨眠猶未能伏滅ト  
ハ資糧位ノ相ヲ說ク、即チ菩薩深固ノ大菩提心ヲ發シテヨリ以後、未タ眞如ヲ證ス  
ル位ニ住セント求メサルマデナスベテ資糧位トス、乃至トハ菩提心ヲ發シテヨリ  
後チ云フ起識トハ順決擇分ノ識ヲ起スナリ、唯識性トハ唯識ノ實性即チ眞如ナ  
リ、住トハ能觀ノ智力其所觀ノ境ニ住スルヲ云フ、是レ次ノ須決擇分ノ位ニハ唯識  
ノ實性眞如ニ住セントスル唯識觀ヲナスト雖モ、今此位ノ菩薩ハ唯識ノ性相ニ於  
テ深ク信解スル分齊ニシテ、未タ唯識觀ヲナス、多散少定ノ心ニテ菩薩福智ノ行  
業ヲ修ス、故ニ乃至未起識求住唯識性ト云ヘリ

此位ニ於テ深ク唯識ヲ信解スルハ四種ノ勝力ニ由ルカ故ナリ、四種ノ勝力トハ  
(一) 因力 大乘ノ二種姓、即チ無始以來第八識ニ依附セル法爾無漏ノ菩提ノ種子ナ

ル本性住種姓ト、法界等流ノ正法ヲ聞キテ熏習シタル習所成種姓トナリ、是レハ二乘等ノ種姓ヲ簡フ

(二)善友力 諸佛等ニ逢事セルヲ云フ、是レハ惡友ノ縁ヲ簡フ

(三)作意力 惡友等ノ遊縁ニ逢フモ決定セル勝解ニ依リテ作意シテ傾動破壊セラレサルヲ云フ、是レハ任運心ヲ簡フ

(四)資糧力 諸ノ善根福智ノ功德ヲ積集セルヲ云フ、是レハ下劣ノ資糧ヲ簡フ

此内外四種ノ勝因縁ノ力ニ由リテ深ク唯識ノ性相ヲ信解シ、眞分別ノ二障ノ現行ヲ制伏ス、眞分別トハ分別起ノ中邪教ニ因ルモノヲ云フ、其邪思惟ニ因リテ起ルモノヲ細分別ト云フ、此位ニハ眞分別ノ現行ヲハ伏スルコトアリト雖モ、其細分別ノモノ及ヒ分別ノ二障ノ種子ニ至リテハ未タ伏シ滅スルコト能ハス、是レ此位ハ多ク散心ニ在リテ菩薩ノ行ヲ修スルヲ以テ其止觀ノ力微劣ナルカ故ナリ、故ニ於二取隨眠猶未能伏滅ト云ヘリ、二取トハ二取ノ取ニシテ即チ能取所取ナル見相分ヲ實有ナリト執取スルヲ云フ、其二取ノ熏習シタル種子ヲ二取隨眠ト云フ、是レ種子ハ有情ニ隨逐シテ賴耶ノ中ニ眠伏スルカニ隨眠ト名ク、即チ煩惱所知二障ノ種子ナリ、種子ノ勢力ヲ伏滅シテ其現行ヲシテ生セサラシムルヲ能伏滅ト云フ、此位ハ未タ此能アラストナリ

### (二)加行位

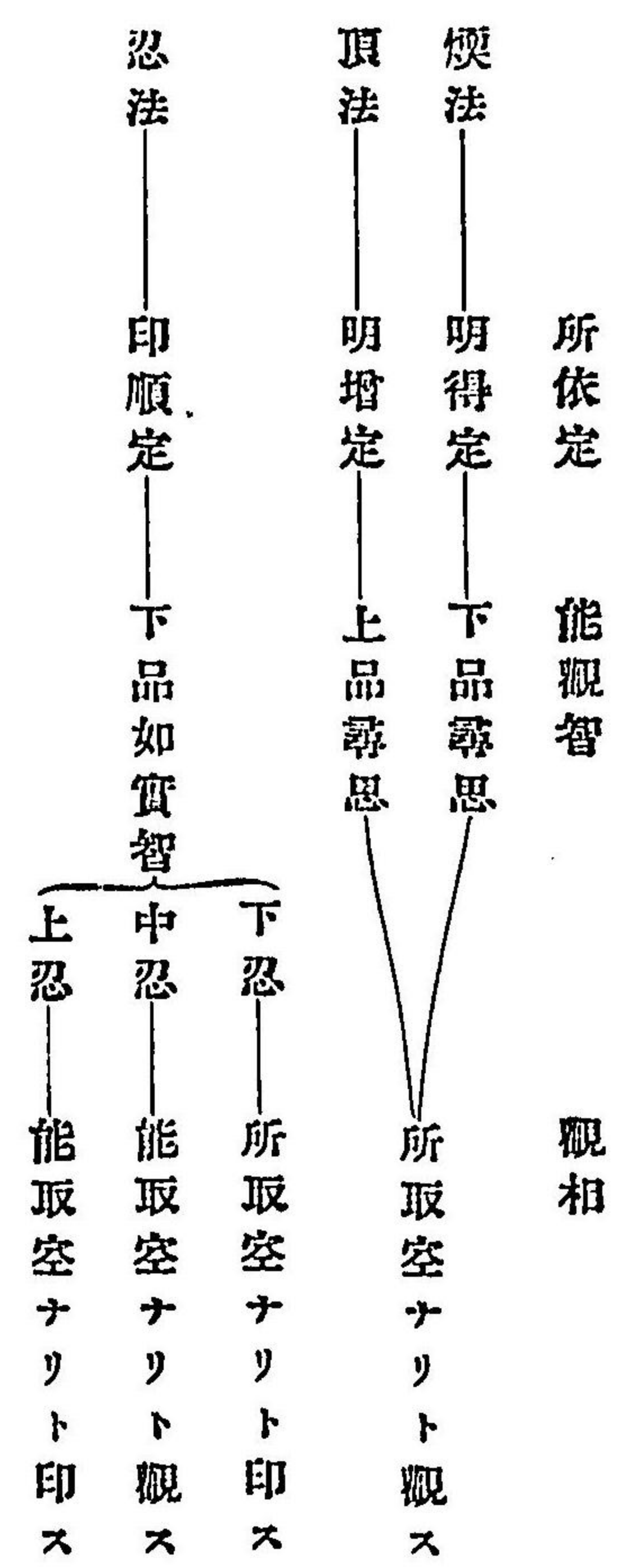
加行位トハ此位ノ菩薩ハ前ノ資糧位ニ於テ福智ノ勝資糧ヲ貯ヘ順解脱分ノ善根ヲ満足セルカ故ニ、後チ見道ニ入りテ唯識ノ實性ニ住センカ爲メニ更ニ加行ヲ修ス、是レ即チ見道ニ入ルノ方便加行ナルカ故ニ加行位ト名ク、此位ヲ亦順決擇分ト名ク、是レ決擇分即チ見道ノ智ヲ欣ヒ求メテ彼ニ順ヒ趣クカ故ナリ

現在立少物謂是唯識性以有所得故非實住唯識トハ加行位ノ相ヲ説ク、此位中更ニ煥頂、忍、世第一ノ四位アリ、之ヲ四加行位ト云ヒ、亦四善根ト云フ、此四加行位ニ於テ四尋思四如實智ノ觀ヲ以テ所取、能取ヲ空ナリト觀ス、更ニ之ヲ詳言スレハ凡ソ所取ノ境多シト雖モ名、義、自性、差別、ノ四法ヲ出テス、名トハ能詮ノ名言ニシテ、義トハ所詮ノ義理ナリ、其名ト義トニ各自性アリ差別アリ、自性トハ法體ノ自相即チ色心等ノ各自ノ體性ナリ、差別トハ其體性ノ上ノ無常苦等ノ差別ノ義ナリ、凡夫ハ之ヲ執取シテ此ハ實ニ色ナリ彼ハ實ニ聲ナリ等ト謂ヘ、色等ノ名言ハ假リニ約束上

ヨリ與ヘラレシモノナレバ、聲等ト名ケ心等ト名クレハ亦聲等トモ云ヘク心等トモ云フコトヲ得ベシ、サレバ名言ハ其義ノ實ニ稱ヒシモノニハ非ザルナリ、而シテ又其名ト云ヒ義ト云フモ實ニアルモノニハ非ズシテ、因縁ノ和合ニヨリテ假リニ色等ト顯ハレシノミ幻ノ如ク夢ノ如シ豈固定實在ノ色等ナランヤ、此名、義、自性、差別ノ四者ハ假有實無ナリト推求尋思スルヲ四尋思ノ觀ト云フ、未タ印可セザル位ナリ、更ニ進ンテ實ノ如ク此所取ハ空ナリ能取モ亦無ナリト印可スル位ヲ四如實智ノ觀ト名ク、

唯 識 論 講 義

此尋思如實ノ觀智ノ發ルコトハ定方ニ依ル、ソノ定ニ明得、明増、印順、無間ノ四定アリ、即チ明得定ニ依リテ下品ノ尋思觀ヲ發シ、遍計所執ナル定實ノ所取ノ境ハ空無ナリト觀ス、此位ヲ煖法ト云フ、次ニ明増定ニ依リテ上品ノ尋思觀ヲ發シ復タ所取ノ境ハ空ナリト觀ス、此位ヲ頂法ト云フ、次ニ印順定ニ依リテ下品ノ如實智ヲ發シ、所取ノ境ハ空無ナルコトヲ印忍シ、及ヒ其能取ノ識モ固定實在ノモノハ空無ナリト觀シ印ス、此位ヲ忍法ト云フ、中ニ於テ所取ノ空ナルコトヲ印忍スル位ヲ下忍トシ、能取ノ空ナルコトヲ觀スル位ヲ中忍トシ、之ヲ印忍スル位ヲ上忍トス、後ニ無間定ニ依リテ上品ノ如實智ヲ發シテ更ニ双ヘテ二取トモニ空無ナリト印可ス、此位ヲ世第一法ト云フ、之ヲ圖表スレハ左ノ如シ



唯 識 論 講 義

是ノ如ク此加行位ニ於テハ固定ノ所取ナク亦實在ノ能取ナシト觀察シ印忍スト唯モ、猶未タ觀心ノ前ニ眞如ノ相ヲ浮ヘテ是レカ即チ唯識ノ實性眞勝義諦ナリト謂ヘリ、故ニ現前立少物謂是唯識性ト云ヘリ、少物トハ能觀ノ心上ニ變現スル眞如ラシキモノヲ云フ、是レ觀心ノ前ニ思惟シ安立シタルモノナルカ故ニ立ト云フ、既ニ心所變ノ相アリテ帶相有所得ノ觀心ナルカ故ニ未タ實ニ無相ノ唯識ノ實性ニ



住スルニハ非ス、故ニ以有所得故非實住唯識ト云ヘリ、有所得トハトリツク相ノアルヲ云フ、住唯識トハ能縁ノ根本智カ唯識ノ實性真如ニ冥契スルヲ云フ、此位ハ二取ヲ空スルカ故ニ分別起ノ二障ノ現行ヲハ皆伏除スレトモ、其種子ニ至リテハ未タ斷スルコト能ハス、亦俱生起ノ二障ノ現行ヲモ全伏スルコト能ハサルナリ

(一五四)

(三) 通達位

通達位トハ此位ノ菩薩ハ無分別智ヲ以テ唯識ノ實性タル真如ニ體會スルカ故ニ通達位ト云フ、通達トハ體會ノ義ナリ、此位ヲ亦見道ト名ク、是レ此位ニ於テ初メテ眞理ヲ見照スルカ故ナリ、若時於所縁智都無所得爾時住唯識離二取相故トハ此通達位ノ相ヲ説ク、即チ前ノ加行位ノ尋思如實智ノ空觀ノ力ニ由リテ、世第一法ノ次刹那ノ時、無漏智初メテ生發ス、是レ即チ根本無分別智ナリ、此智親ク真如ノ妙理ヲ證悟ス、眞理ハ其體微妙ニシテ語ラントスレトモ言語道斷ニ、分別セントスレトモ思慮及ハス、此場合ハ理智冥會シテ一切都テ所得ノ相ナシ、故ニ若時於所縁智都無所得ト云ヘリ、若時トハ無

分別智ノ發ル時即チ世第一法ノ次刹那ヲ云フ、於所縁トハソノ語ハ泛ク諸境ニ通スレトモ今ハ前ノ加行位ヨリ住セント欲セシ唯識性即チ真如ヲ指ス、智トハ亦泛ク能縁ノ觀智ニ通スルノ語ナレトモ今ハ能クソノ所縁ノ真如ヲ證悟スル無分別智ヲ云フ、其理智冥會シテ都テ所得ノ相ナキ時ハ能取ノ執ヲ離レ所取ノ相ヲ離ルルカ故ニ、ソノ時實ニ唯識ノ實性眞勝義諦ニ住スルナリ、故ニ爾時住唯識離二取相故ト云ヘリ、(合シテ二取ト云ヘトモ、能取ニ在リテハタ、能取ノ執ノミニシテ、所取ニアリテハ所執ノ所取ノミナラス亦非執ノ相分ヲモ攝シテ所離トス、) 然ルニ此通達位見道ニハ眞見道ト相見道トアリ、頌文ノ説ク所ハ是レソノ眞見道ノ相ナリ、眞見道トハ正ク根本無分別智ヲ發シテ分別起ノ二障ノ種子ヲ斷シ、二空所顯ノ眞如ヲ證見スルヲ云フ、即チ無間道ニ於テ惑ノ種牀ヲ斷シ、解脫道ニ於テ其習氣ヲ捨シテ擇滅ノ理(擇滅ノ理トハ無漏智ノ簡擇力ヲ以テ感障ヲ斷シタルニ由リテ顯ハサレタル眞理ヲ云フ、即チ眞如ナリ)ヲ證得ス、此無間解脫ノ二刹那ヲ名クテ一心ノ眞見道ト云フ、此後更ニ觀心熟練ノ爲メニ後得智ヲ發シテ眞見道ノ斷惑證理ニ擬シテ習學ス、之ヲ相見道ト云フ、此ニ三心ノ非安立諦觀アリ、十六心ノ安立

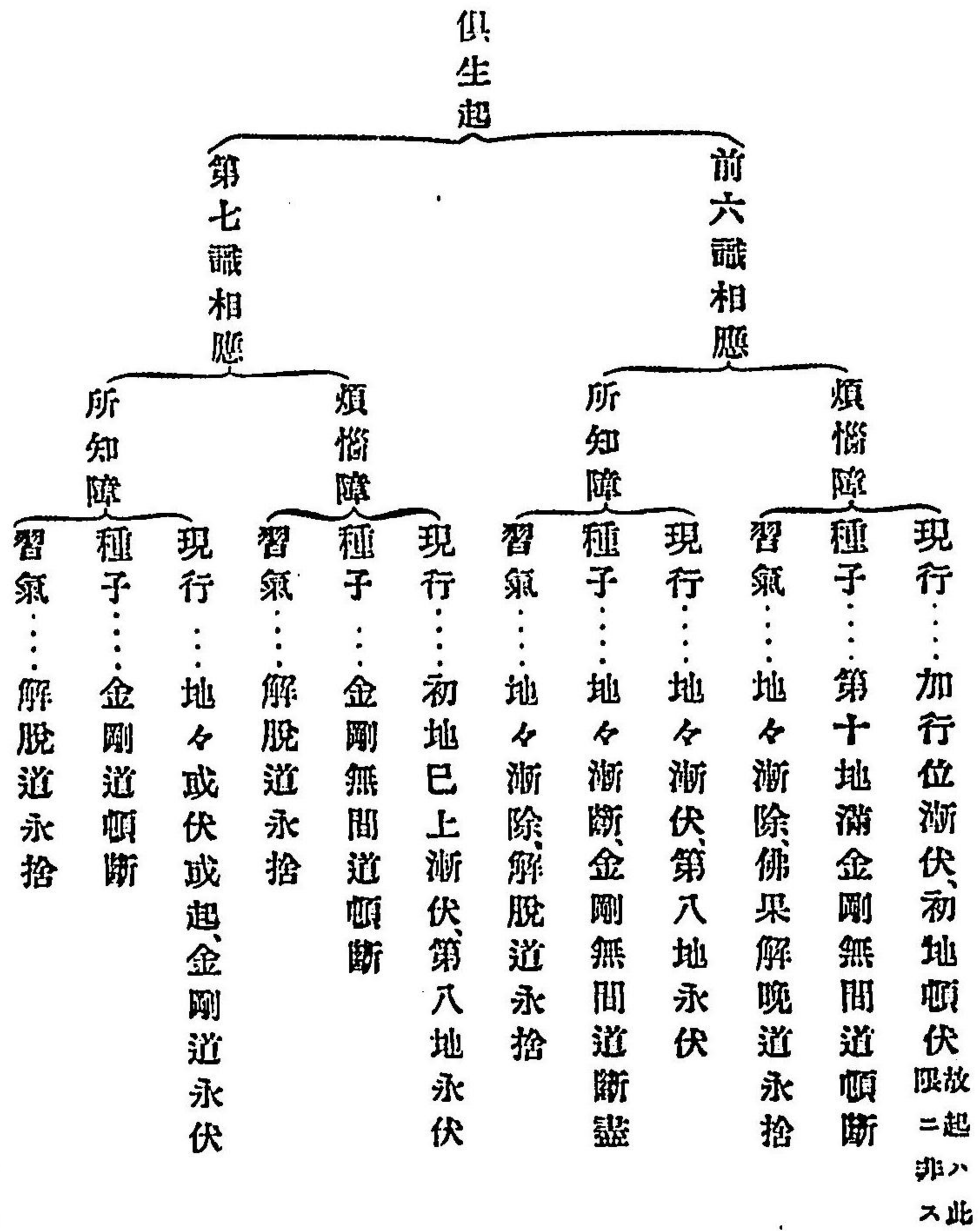
(一五五)

諦觀等アリ、具サニハ論九十三左已下ノ如シ、

### (四) 修習位

修習位トハ此位ノ菩薩ハ前ノ通達位ノ觀ヨリ出テ已リテ、更ニ餘ノ俱生起ノ二障ヲ斷除シ轉依ヲ證得センカ爲メニ復々數々無分別智ヲ修習ス故ニ修習位ト云フ、亦之ヲ修道トモ名ク、此位中十階アリ之ヲ十地ト云フ、極喜地、離垢地、發光地、焰慧地、極難勝地、現前地、遠行地、不動地、善慧地、法雲地是ナリ  
無得不思議是出世間智捨二塵重故便證得轉依トハ此修習位ノ相ヲ説ク、中ニ於テ前三句ハ正ク此位ノ相ヲ明シ、後ノ一句ハ此位ノ究竟スルトキ便チ二轉依ノ果ヲ得ルコトヲ明ス

無得不思議是出世間智トハ此位ニ於テ數々修習スル所ノ無分別智ナリ、是レ此智ハ遍計所執ノ能取所取ヲ離レテ所得アルコトナク思慮言議ノ及ハサル所ナルカ故ニ無得不思議ト云フ、此無得不思議ノ智ハ能ク世間有漏ノ本タル二障ヲ斷シ、或ハ其躰無漏ニシテ而モ能ク眞如ヲ證ス、故ニ是、出世間智ト云フ、此無得不思議ノ出世間智ヲ數々修習スルカ故ニ能ク俱生起ノ二障ノ種子及ヒ其習氣ヲ斷捨ス、故ニ捨二塵重故ト云ヘリ、二塵重トハ煩惱所知二障ノ種子ニシテ、亦兼テ其習氣ヲ云フ、ソノ二障ノ現行ヲ伏シ塵重ヲ斷捨スル位次左ノ如シ



唯 識 論 講 義

頌文此位ノ相ヲ明スニ無分別智ニ約スルハ、修習位ハ轉依ヲ證センカ爲メニ二障ヲ斷スルヲ以テ、其能斷ニ就クカ故ナリ、此位ハタ、無分別智ノミニシテ餘法ナシト云フニハ非ス、即チ十地位中ニ於テ施、戒、忍、精進、禪定、般若、方便、願、力、智ノ十波羅密ノ勝行ヲ修シ、異生性、邪行、闇鈍、微細煩惱現行、下乘般涅槃、塵相現行、細相現行、無相加行、利他不行、諸法未得自在ノ十種ノ重障ヲ斷シテ、遍行、最勝、勝流、無攝受、類無別、無染淨法無別、不增減、智自在所依、業自在等所依ノ十真如ト云ヘトモ、真如ノ埋鉢ニ其差別アルニハ非ス、能證ノ智ニ明味滿分アルカ故ニ隨ヒテ所證ノ理ヲ假リニ分チテ十種トス、ヲ證ス(具ニハ論九丁二十ヨリ十四マテヲ看ルヘシ)其中前四地ニハ觀智未タ純熟ヒサルカ故ニ真俗各別ニ之ヲ觀スト雖モ、第五地ニ至レハ始メテ類無別真如ヲ證シテ事理不二ノ知見ヲ開クカ故ニ真俗合觀スルコトヲ得、然レトモ所修ノ觀猶多ク流轉還滅染ノ相ヲ認メテ無相ノ觀ハ甚タ少シ、第六地ニ至レハ多ク無相ノ觀ニ住シテ有相ノ觀少シ、無相ノ觀多シト雖モ未タ全ク流還ノ相ヲ脱スルコト能ハス、第七地ニ至レハ純ラ無相ノ觀ノミ相續ス、而モ猶未タ功用ヲ加フルヲ免レス、進ミテ第八地ニ入レハ無相ノ觀加行功用ヲ待タス任運ニ相續シテ純

唯 識 論 講 義

ラ是レ無漏智ノミナリ、是ニ至リテ六識相應ノ二障及ヒ第七識相應ノ煩惱障ハ永ク伏滅シテ現行スルコトナシ、唯第七識相應ノ所知ノ細障ノミ現行スルコトアリ、無漏心ノミ恒ニ相續スルニ猶第七識ノ所知障現行スルハ第六識單ノ生空觀ノ時アルカ故ナリ、是ノ如ク第八地ニ於テハ無相ノ樂ヲ得ルカ故ニ寂滅ニ著シ自利ニ耽リテ肯テ進ミテ利他ノ行ヲ修セス、諸佛ノ勸獎ニ遇ヒテ能ク進趣シテ第九地ニ入リ、法、義、詞、辯ノ四無碍解ヲ得テ自在ニ有情ヲ利樂ス、而シテ更ニ進ミテ第十地ノ滿位金剛無間道ニ至リ一切ノ二障悉ク斷盡シテ遺餘アルコトナシ、是ニ於テ佛位ニ登リ二轉依ノ大果ヲ證得ス、故ニ便證得轉依ト云ヘリ、轉依トハ凡ソ轉依ト云フニ就キ能轉道ト所轉依ト所轉捨ト所轉得トノ四義アリ

(一) 能轉道トハ能ク二障ヲ轉捨シ二果ヲ轉得スル智ナリ、(道トハ智ナリ)此ニ二類アリ

(イ) 能伏道 有漏無漏ノ加行、根本、後得ノ三智ナリ、此智ハ能ク二障ノ種子ノ勢力ヲ伏シテ其現行ヲ生ヒサラシム

(ろ) 能斷道 無漏ノ根本、後得ノ二智ナリ、此智ハ能ク二障ノ種子ヲ斷除スルナリ

(二) 所轉依トハ能轉ノ智カ染法ヲ轉捨シ淨法ヲ轉得スル所依トナルモノナリ、此ニ亦二類アリ

(い) 持種依 第八識ナリ、此識ハ能ク染淨法ノ種子ヲ任持シ所依トナリテ轉捨轉得セシム

(ろ) 迷悟依 眞如ナリ、眞如ハ之ニ迷ヘハ染法生シ、之ヲ悟レハ淨法生ス、故ニ迷悟ノ所依根本トナリテ轉捨轉得セシム

(三) 所轉捨トハ能轉道ニ轉捨セラル、モノナリ、此ニ亦二類アリ

(い) 所斷捨 煩惱所知ノ二障ノ種子ナリ、無漏ノ眞無間道智生スルトキ此種子斷捨セラル、是レ惑障ト治道トハ相違敵對スルカ故ナリ、又所執ノ我法モ能執ノ妄情ヲ斷スルカ故ニ隨ヒテ斷捨セラル

(ろ) 所棄捨 非障ノ有漏法及ヒ劣無漏法ノ種子ナリ、此等ハ障法ニ非サルカ故ニ斷セラルヘキモノニハ非サレトモ、能持ノ第八識轉シテ純淨圓明トナルトキハ既ニ有漏及ヒ劣無漏ノ種子ヲ任持スヘキモノニ非サルカ故ニ自ラ棄捨セラル

(四) 所轉得トハ能轉道ヲ以テ二障ヲ轉捨スルニ由リテ轉得セラル、モノナリ、此ニ亦二類アリ

(い) 所顯得 眞涅槃ナリ

(ろ) 所生得 大菩提ナリ

已上ノ四義能轉ノ道ヲ以テ所轉依ヲ所依トシ所轉捨ヲ轉捨スルニ由リテ所轉得ヲ證得ス、今頌文ニ云フ所ノ轉依トハ即チ此所轉得ノ菩提涅槃ノ大果ナリ、ソノ能ク之ヲ證得スルハ此修習位ニシテ、ソノ所證得ノ轉依ノ果ハ即チ次ノ究竟位ナリ

### (五) 究竟位

究竟位トハ前ノ修習位ニ於テ數々無分別智ヲ發シ諸ノ勝行ヲ修シ二障悉ク斷盡ヒルカ故ニ、二果圓カニ得テ、菩薩ノ未タ滿タサル所アルカ如クナラス、又明勝ニシテ二乘ノ劣果ノ如クナラス、究極竟了セル地位ナルカ故ニ究竟位ト名ク、即チ佛果是ナリ

此即無漏界不思議善常安樂解脫身大牟尼名法トハ此究竟位ノ相ヲ説ク、中ニ於テ初ノ一句ハ其體ヲ出シ、次ノ七字ハ其勝德ヲ顯シ、後ノ八字ハ二乘ニ簡ヒテ三乘ノ

別ヲ顯ス

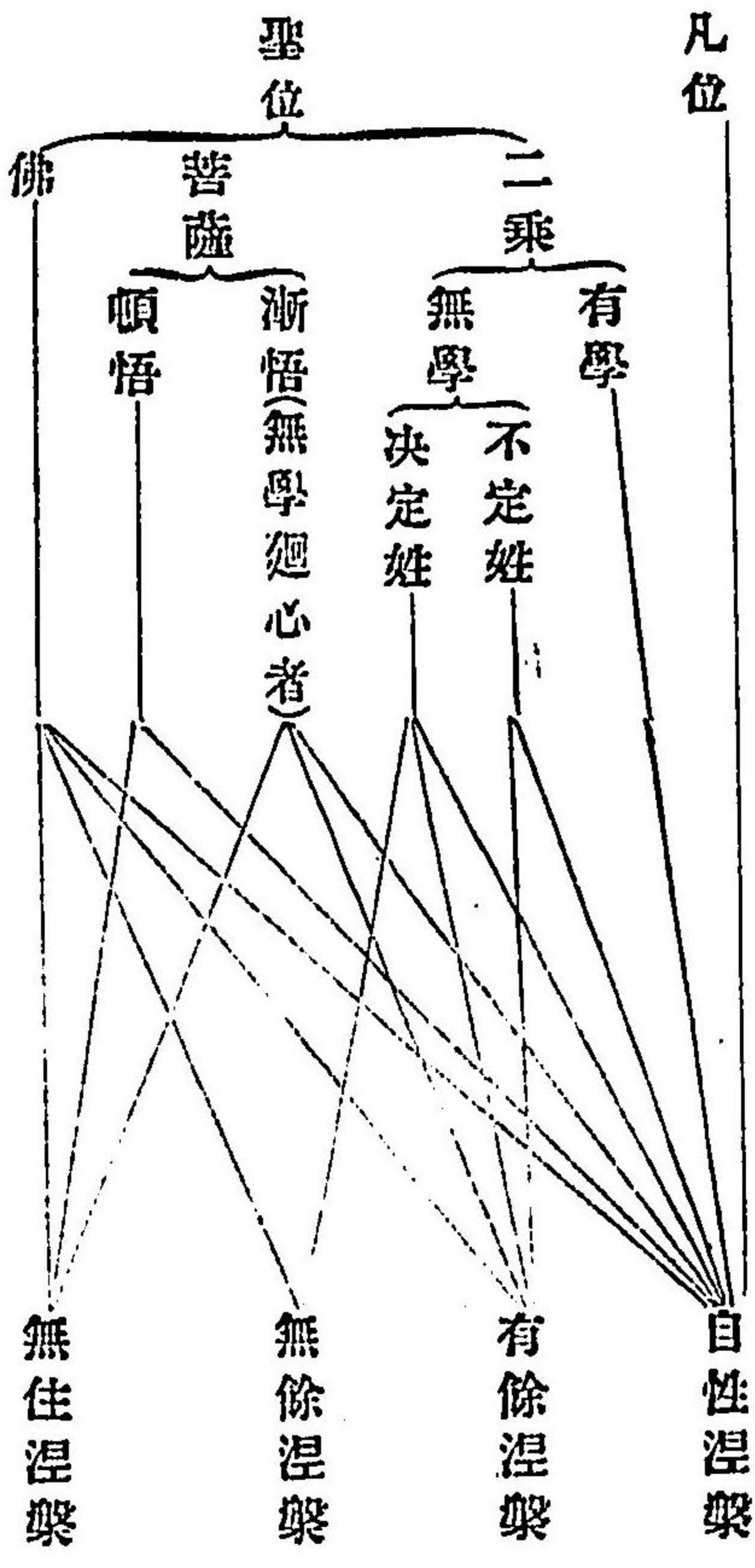
此トハ前段云フ所ノ所轉得ノ二轉依ヲ指ス、故ニ此二轉依ヲ能ク證得スルハ前ノ修習位ニシテ其所證得ノ轉依ハ即チ此究竟位ノ相ナルコトヲ知ルヘシ、眞涅槃ト大菩提ト是レナリ

(イ) 眞涅槃——所顯得……其體眞如ノ理ナリ、眞如ノ理ハ自性本來清淨ニシテ無垢ナレトモ、客塵二障アルトキハ之ニ覆蔽セラレテ顯ハレス、而ルヲ能斷ノ無漏智ヲ以テ彼二障ヲ斷除シ盡スカ故ニ、自性清淨ナル眞如ノ妙理全ク顯現ス、之ヲ眞涅槃ヲ證スト云フ、涅槃ニ四種アリ

- (一) 本來自性清淨涅槃 一切諸法ノ實性タル眞如ノ理體ナリ、客塵アリト雖モ其性本ヨリ清淨ニシテ生モナク滅モナク凝然湛寂ナルヲ云フ
- (二) 有餘依涅槃 煩惱障ヲ斷シタルニ由リテ顯サレタル眞如ナリ、是レ煩惱障ヲハ斷シタレトモ未ダ異熟ノ苦果ナル餘殘ノ所依アルガ故ニ有餘依ト云フ
- (三) 無餘依涅槃 生死ノ苦果ヲ斷シタルニ由リテ顯サレタル眞如ナリ、是レ煩惱既ニ盡キタル上ニ更ニ餘殘ノ所依亦滅シタルカ故ニ無餘依ト云フ

(四) 無住處涅槃 所知障ヲ斷シタルニ由リテ顯サレタル眞如ナリ、此涅槃ヲ證シテ悲智ヲ生スレハ、大悲アルガ故ニ涅槃ニ住着セスシテ出テ、有情ヲ利シ、大智アルガ故ニ生死ニ滯住セスシテ迷界ヲ離ル、故ニ無住處ト云フ

已上四種ノ涅槃ハ眞如ノ理體ノ上ニ於テ義邊ノ差別ニ依リテ之ヲ安立ス、中ニ於テ正ク所顯得ノ名ヲ得ルモノハ後ノ三涅槃ナリ、今云フ所ノ眞涅槃トハ即チ是レナリ、凡聖及ヒ三乘ニ就キテ四種ノ具不具ヲ分別スレハ左ノ如シ



サレバ四種ヲ具有シテ眞涅槃ヲ得タルモノハ唯究竟位佛果アルノミ

(ろ) 大菩提ニ所生得。其體無漏ノ智ナリ、無漏智ハ其能斷ノ種子ハ無始已來法爾ニ第八識ニアリト雖モ、所知障アルトキハ之ニ障礙セラレテ生スルコト能ハス、而ルヲ能斷ノ道力ヲ以テ彼障ヲ斷除スルガ故ニ其種子ヨリ現行生起ス、之ヲ菩提ヲ得ト云フ、既ニ生スルコトヲ得バ盡未來際展轉相續ス、此菩提ニ四智相應ノ心品アリ

(一) 大圓鏡智相應心品 有漏ノ第八識聚ヲ轉シテ得ルモノナリ、此心品ハ有漏ノ第八識カ現種諸法ノ依持トナルカ如ク、能ク勝無漏ノ種子ヲ任持シ、佛果ノ諸ノ現行ノ功德法ヲ變現シテ其所依トナルナリ、其自受用ノ佛身佛土等ノ諸相ヲ此智品ノ上ニ現生スルコト、大圓鏡ニ種々ノ色像ヲ影現スルカ如クナルカ故ニ名ケテ大圓鏡智ト云フ

(二) 平等性智相應心品 有漏ノ第七識聚ヲ轉シテ得ルモノナリ、此心品ハ有漏ノ時ハ恒ニ内、第八識ノ見分ヲ緣シテ我執ヲ起ス、此我執アルカ故ニ第六識外ニ自他彼此ノ差別ヲ執シテ平等ノ大悲生セス、然ルニ轉シテ無漏トナレハ内、平等ノ理性ヲ證スルカ故ニ、外、一切諸法及ヒ自他ノ有情ヲ緣シテ平等ナリト思

量ス、自他平等ト思量スルカ故ニ大悲生テ生シ、十地ノ諸菩薩ノ所樂ニ隨ヒテ他受用身土ヲ變現シテ、之ヲシテ法樂ヲ受用セシム、此智品ハ平等ノ理性ヲ證スルカ故ニ平等性智ト名ク

(三) 妙觀察智相應心品 有漏ノ第六識聚ヲ轉シテ得ルモノナリ、此心品ハ善ク諸法ノ自相共相ヲ觀察スルニ無礙自在ナルカ故ニ妙觀察智ト名ク、巧ニ諸法ノ自共相ヲ觀察スルカ故ニ大衆會ノ中ニ於テ自在ニ法輪ヲ轉シテ、ソノ諸ノ疑惑ヲ斷除ス、即チ說法斷疑ノ作用ヲ施ス智品ナリ

(四) 成所作智相應心品 有漏ノ前五識聚ヲ轉シテ得ルモノナリ、此心品ハ地前ノ菩薩、二乘、凡夫等ノ講ノ有情ヲ利樂センカ爲メニ、身土等ノ種々ノ事業ヲ示現シ、本願力ノ所應作ノ事ヲ成ス、故ニ名ケテ成所作智ト云フ

已上四智ノ生起スル位ハ、妙觀ト平等トノ二智ハ通達位ニ一分證得シ、圓鏡ト成事トノ二智ハ究竟位ニ方ニ生起ス、蓋シ斷惑ノ作用ハ專ラ推求觀察ノ意樂力ニ由ル、而シテ八識ノ中此意樂力アルハ唯第六識ノミ、故ニ菩薩ノ第六識加行位ニ於テ尋思如實ノ觀察ヲ以テ二執ヲ空無シ分別起ノ二障ヲ伏シテ、見道ニ入ルキ

唯 識 論 講 義

キ二空ノ無漏智起リテ分別起ノ二障ヲ斷ス、此無漏智ハ即チ第六識相應ノ妙觀察智ナリ、此觀察智ノ二空無漏ハ第七識相應ノ二執ニ違反スルカ故ニ、其第六識ノ無漏ノ智力ニ制セラレテ第七識ノ二執起ルコト能ハズ、之ニ引カレテ第七識ノ無漏ノ智品亦生シテ平等ノ法性ヲ證ス、之ヲ平等性智ト云フ、故ニ妙觀平等ノ二智ハ初地通達位ニ一分起ルコトヲ得ルナリ、圓鏡成事ノ二智ノ唯佛果究竟位ノミニ起リテ因位ニ分得セザルコトハ、圓鏡智ハ有漏ノ第八識ヲ轉シテ得ル所ナリ、而ルニ第十地ノ滿位金剛心已前ハ二障ノ種子猶未タ盡キザルカ故ニ能ク之ヲ任持スル異熟ノ第八識ナカルベカラズ、故ニ因位ノ間ハ鏡智生セズ、金剛無間道ニ至リテ二障ヲ斷盡スル時上品無漏ノ種子ヲ熏増シテ最極圓明純淨ノ第八識ヲ引クカ故ニ、次刹那解脫道ノ位ニ至リテ有漏ノ異熟識ヲ轉捨シテ無漏ノ淨識ヲ轉得ス、是レ即チ第八識相應ノ大圓鏡智品ナリ、成所作智ハ有漏ノ前五識ヲ轉シテ得ル所ナリ、五識ハ第八所變ノ五根ヲ以テ不共ノ俱有所依ナル親シキ同境依トス、而ルニ因位ノ間ハ能變ノ第八識有漏ナルカ故ニ其所變ノ五根モ亦隨ヒテ有漏ナリ、親シキ同境依既ニ有漏ナルカ故ニ無漏ノ五識ヲ發生スルコト

能ハズ、故ニ五根ノ無漏トナル時即チ佛果ニ至リテ第八ニ同ク初メテ此智品ヲ證得スルナリ

今云フ所ノ大菩提トハ此四智ヲ云フ、通達修習二位ノ菩薩モ妙觀平等ノ二智ノ一分ヲ證得スト雖モ、圓備セサルカ故ニ大菩提ト云ハズ、タ、此四智ヲ具足シテ大菩提ヲ得タルモノハ唯究竟位佛果アルノミ

此眞涅槃、大菩提ノ二轉依、是レ所證得ノ大果ニシテ即チ究竟位ナリ、故ニ今究竟位ノ躰ヲ説クニ之ヲ指シテ此ハ即チ無漏界ト云ヘリ、無漏トハ煩惱ト俱ナラス彼ニ相應セラレス彼ニ緣縛セラレサルヲ云フ、此二轉依ノ果躰ハ諸ノ二執ヲ斷シ雜染ヲ離レテ煩惱ニ相應緣縛セラレサルカ故ニ無漏ナリ、而モ此無漏ハ圓滿勝明ノ究竟ノ無漏ナリ、二乘ノ如キ亦無漏ヲ得レトモ尙第七相應ノ所知ノ細障ト俱ナレハ勝明ニ非ス、又菩薩ノ如キモ無漏ヲ得ト雖モ其一分ヲ得ルノミニシテ圓滿ニ非ス、故ニ俱ニ究竟ト云フヘカラス、此二轉依ノ大果ハ即チ究竟ノ無漏界ニ攝ス、界トハ藏ノ義ナリ、是レ大菩提ハ能ク有爲ノ諸ノ功德ヲ含藏シ、眞涅槃ハ能ク無爲ノ大功徳ヲ包藏スルカ故ナリ、又界トハ因ノ義ナリ、是レ此大果ハ或ハ所緣トナリ或ハ增

唯 識 論 講 義

唯 識 論 講 義

上縁トナリテ五乘利樂ノ事業ヲ出生スルカ故ナリ  
 不<sup>〇</sup>思<sup>〇</sup>議<sup>〇</sup>善<sup>〇</sup>常<sup>〇</sup>安<sup>〇</sup>樂<sup>〇</sup>トハ究竟ノ無漏界ナル二轉依ノ果躰ニ具有スル所ノ殊勝ノ徳性  
 ヲ顯ス、其勝徳多シト確モ今且ク四種ヲ擧ク、即チ不思議ト善ト常ト安樂トナリ、(一)  
 不思議トハ二轉依ノ果躰ハ甚深微妙ニシテ尋思ノ境ヲ絶シ、諸ノ世間ノ喩ヲ以テ  
 比方シテ言議スヘカラス、故ニ不思議ナリ、(二)善トハ清淨法界ノ眞涅槃ハ生滅ヲ遠  
 離シテ極メテ安穩ニ、四智心品ノ大菩提ハ妙用無方ニシテ極メテ巧便ナリ、而モ二  
 轉依俱ニ順益ノ相アリテ不善ト相反ス、故ニ善ナリ、(三)常トハ眞涅槃ハ無生無滅ニ  
 シテ性變易ナク、大菩提ハ常住ノ眞如ヲ所依トシ、又所化ノ有情盡期ナキニ由リテ  
 斷スルコトナク盡クルコトナシ、故ニ常ナリ、(四)安樂トハ二轉依ハ自躰逼惱スルコ  
 トナク、亦能ク有情ヲシテ安樂ナラシム故ニ安樂ナリ  
 解<sup>〇</sup>脫<sup>〇</sup>身<sup>〇</sup>大<sup>〇</sup>牟<sup>〇</sup>尼<sup>〇</sup>名<sup>〇</sup>法<sup>〇</sup>トハ二乘ニ簡ヒテ三乘其果別ナルコトヲ示ス、解<sup>〇</sup>脫<sup>〇</sup>身<sup>〇</sup>トハ煩惱  
 障ノ纏縛ヲ解脫シテ得ル所ノ果身ナリ、彼二乘ハ煩惱障ヲ離ル、カ故ニ二轉依ノ  
 一分ヲ得テ解<sup>〇</sup>脫<sup>〇</sup>身<sup>〇</sup>ト名クルコトヲ得レトモ、所知障ニ覆ハル、カ故ニ十力等ノ殊  
 勝ノ功德法ニ莊嚴セラル、コトナシ、然ルニ佛果如來ハ大牟尼ヲ成就セリ、牟尼ト

唯 識 論 講 義

ハ梵語譯シテ寂默ト云フ、即チ一切法ノ性相離言ノ不二法門ニ名ク、佛果ハ二障盡  
 ク斷除シテ此不二法門ナル無上ノ寂默ノ法ヲ成就セルカ故ニ解<sup>〇</sup>脫<sup>〇</sup>身<sup>〇</sup>ト名クルノ  
 ミナラス亦法身ト名ク、是レソノ二乘ニ異ナル所ナリ、二乘ノ如キハ解<sup>〇</sup>脫<sup>〇</sup>身<sup>〇</sup>トハ名  
 クヘケレトモ法身ノ名ヲハ與ヘサルナリ、故ニ彼ニ簡ヒテ解<sup>〇</sup>脫<sup>〇</sup>身<sup>〇</sup>大<sup>〇</sup>牟<sup>〇</sup>尼<sup>〇</sup>名<sup>〇</sup>法<sup>〇</sup>ト云  
 ヘリ  
 法トハ法身ニシテ諸ノ功德法ノ躰依聚ニ名ク、(身トハ躰、依、聚ノ義ナリ)即チ三身ノ  
 總稱ナリ、(三身ノ隨一ナル法身ニハ非ス)三身トハ自性身、受用身、及ヒ變化身ナリ  
 自性身トハ諸ノ如來ノ所證ノ眞淨ノ妙理、受用變化ノ所依ノ實性ニシテ、万善衆徳  
 ノ本躰ナリ、亦名クテ法身ト云フ、是レ有爲無爲諸大功德法ノ所依止ナルカ故ナリ、  
 此理ハ一切ノ凡夫モ亦之ヲ具スト雖モ惑障ニ覆ハレテ其自性ヲ顯サ、ルカ故ニ、  
 凡夫ニアリテハ只如來藏ト名クテ自性法身ノ名ヲ與ヘス、究竟位ニ至レハ之ヲ證  
 シ顯スカ故ニ自性身ト名ク亦法身ト名ク、其所居ヲ法性土ト云フ、是レ亦眞如法性  
 ノ理躰ナリ  
 受用身トハ此ニ二種アリ、自受用身ト他受用身トナリ、自受用身トハ三大長時劫ニ



修集セル所ノ無邊ノ勝因ニ酬イテ感得セルモノニシテ、未來際ヲ盡シテ恒ニ自ラ  
 廣大ノ法樂ヲ受用スル自證圓滿ノ實智身ナリ、ソノ所居ヲ自受用淨土ト云フ、此身  
 土ハ大圓鏡智相應ノ第八識ノ所變ナリ、他受用身トハ既ニ自證圓滿スルニ由リテ、  
 初地已上ノ菩薩ノ爲メニ、大神通ヲ現シ正法輪ヲ轉シテ彼疑網ヲ決斷シ彼ヲ大  
 乘ノ法樂ヲ受用セシムル微妙清淨ノ示現身ナリ、其所居ヲ他受用淨土ト云フ、此身  
 土ハ平等性智品ノ所現ナリ  
 變化身トハ地前ノ菩薩二乘、凡夫等ノ諸ノ有情ノ爲メニ、其機ノ宜ニ隨ヒテ八相ヲ  
 示シ或ハ神通ヲ現シ或ハ法門ヲ説キ其他三業ノ種々ノ事業ヲ變化シテ之ヲ利樂  
 スル隨機應同ノ示現身ナリ、其所居ヲ變化土ト名ケテ淨穢ニ通ス、此身土ハ成所作  
 智品ノ所現ナリ(三身ノ能變現ヲ三智ニ配スルハ勝能ニ從フ、實ニ據レハ俱ニ能ク  
 三身ヲ變現ス)

已上ノ三身之ヲ要スルニ自受用身トハ自證圓滿ノ實智身ニシテ、其所依ノ實性所  
 證ノ妙理ヲ自性身ト云ヒ、利他ノ爲メニ示現スルヲ他受用身、變化身ト云フ、中ニ於  
 テ地上ノ菩薩ノ爲メニ現スルモノ(即チ地上ノ菩薩ノ所見)ヲ他受用ト云ヒ、地前ノ  
 菩薩二乘、凡夫ノ爲メニ現スルモノ(即チ地前ノ菩薩等ノ所見)ヲ變化ト云フ、サレハ  
 三身ト云フト雖モ別佛ニ非スシテ一佛ノ所具ナリ



此三身具足ノ佛果之ヲ究竟位トス、既ニ此位ニ登レハ万徳ヲ成就シテ、未來際ヲ盡  
 シテ恒ニ自ラ大法樂ヲ受用シ、類ニ隨ヒ機ニ應シテ他ヲ利樂スルコト窮極アルコ  
 トナシ、是レ即チ斯教ノ大目的ニシテ、唯識ヲ談シ中道ヲ説ク蓋シ皆コレカ爲メナ  
 リ

上來略シテ唯識三十論ノ意義ヲ講述シ了ル、竊ニ論主世親ノ真意ヲ誤ラサラ  
 ンコトヲ期シ、成唯識論ニ依憑シ述記ヲ指南トシ三傑疏同學鈔等ニ參照セリ、殊

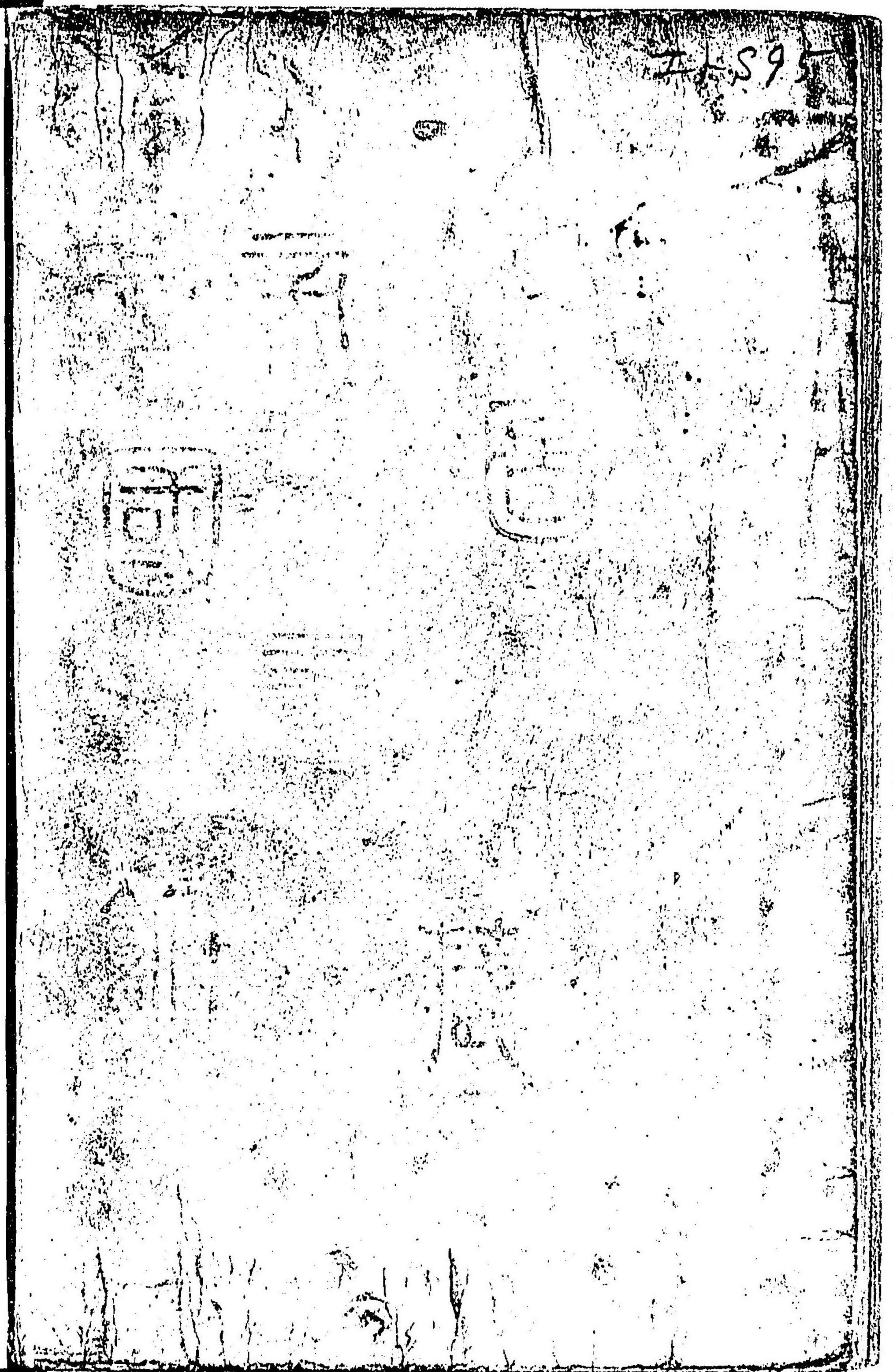
14  
227

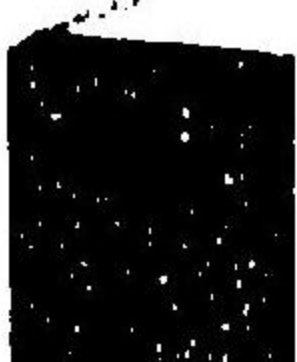
ニ私見ヲ交ヘサリシハ宗教ナル佛教トシテ講述シタレハナリ、然レトモ庸庸  
恐クハ論主ノ教義ヲ隱覆シ先輩ノ指教ニ違背スルコト多々ナラン、若シ一毫  
モ聖教正理ヲ發揮スルコトアラハ、幸ニ此法益ヲ施シテ廣ク世ヲ救ヒ普ク生  
ヲ攝シテ共ニ大智慧光明ニ資セン、今終リニ臨ミテ亦十大論師ノ雅懷ヲ追フ、  
論師唱フル所ノ結釋施願ノ一頌アリ掲ケテ以テ此講述ノ結示トス頌ニ云ク

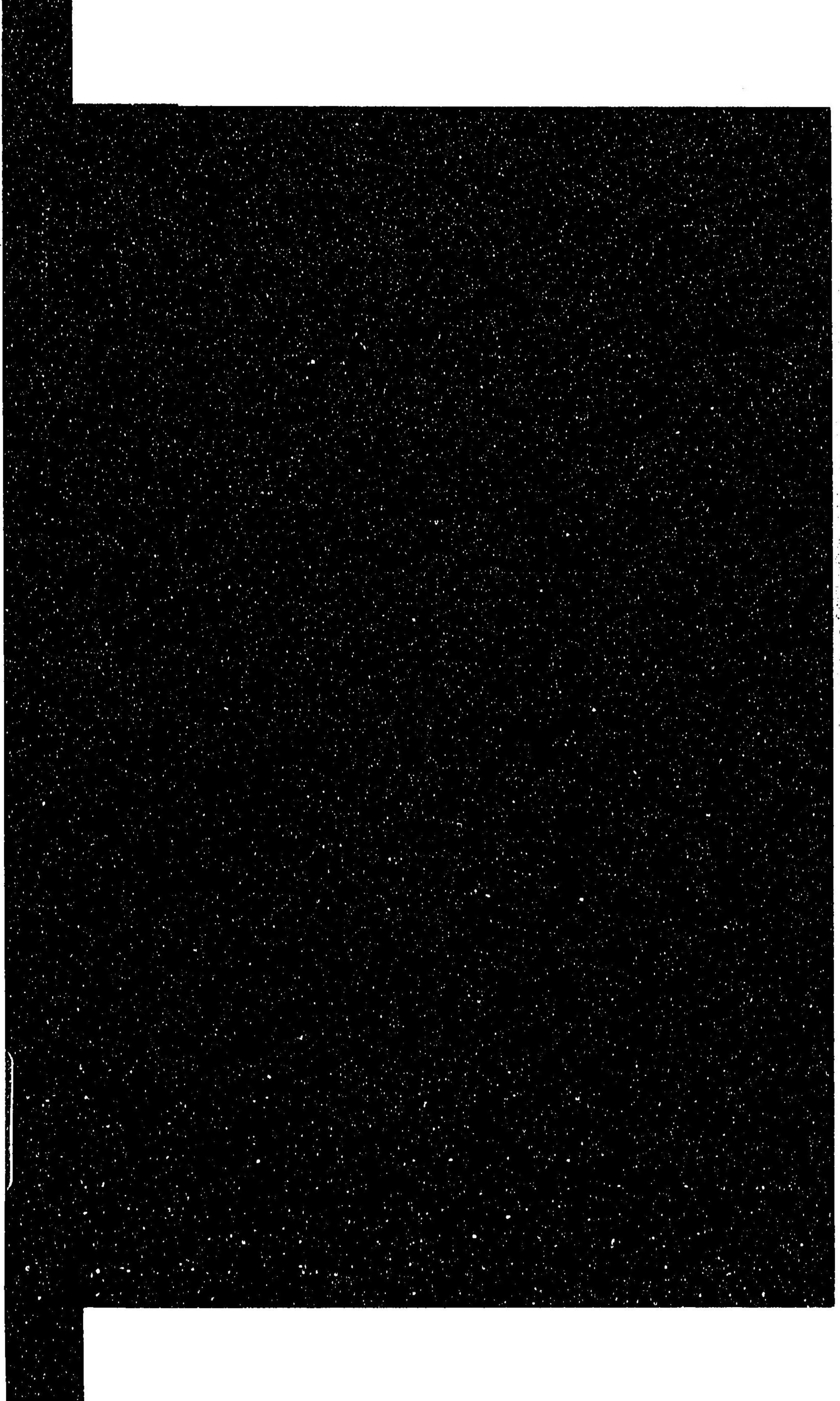
已依聖教及正理  
分別唯識性相義  
所獲功德施群生  
願共速登無上覺

唯識三十論講義完

1895







14

224

016312-000-9

14-224

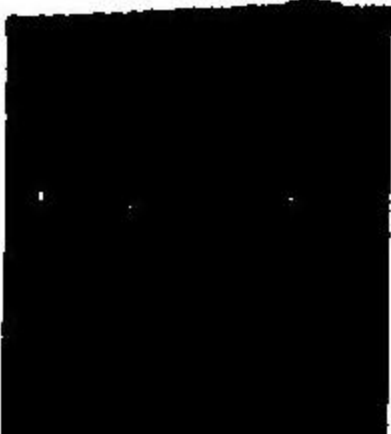
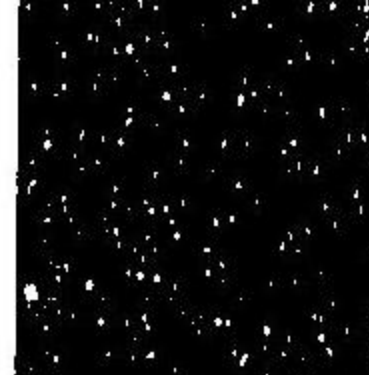
唯識三十論

井上 玄真/述

M31

ABD-0232





14  
224

佛  
經

唯識  
三十  
論

井上

